

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 2111-1

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ①-1 平常展							
<p>【年度計画】</p> <p>展覧事業の中核と位置づけ、各国立博物館の特色を十分発揮した特集陳列等を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。</p> <p>(4館共通)</p> <p>平常展来館者数について、22年度末の大震災の影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>ア 定期的な陳列替の実施(年4,000件程度)</p> <p>イ 陳列総件数 約5,500件(東洋館閉館のため)</p> <p>ウ 本館「日本美術の流れ」を始めとする日本美術関係の展示、平成館の日本考古展示の更なる充実を図る。</p> <p>エ 平成24年度の東洋館開館に向け準備を進める。</p> <p>オ 特集陳列</p> <p>平成23年度は東洋館が改修工事のため通年休館となり、特集陳列を実施する展示場が減少するため特集陳列の数は例年より減らさざるをえない。東洋館展示の代替として、本館においても東洋美術・考古の特集展示を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和鏡-鏡に表された文様の雅(4月26日～7月10日)</li> <li>・日本の仮面(12月6日～2月5日)</li> <li>・「博物館に初もうで」(平成24年1月2日～1月29日)等</li> </ul> <p>カ 文化庁関係企画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「平成23年 新指定 重要文化財」(仮称)(4月26日～5月8日)</li> </ul> <p>平成23年に新たに重要文化財に指定される文化財を展示する。</p>								
担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長	富田 淳				
<p>【実績・成果】</p> <p>(4館共通)</p> <p>東日本大震災の後、安全確認のため4月中は開館時間を10:00～16:00とし、表慶館、法隆寺宝物館及び黒田記念館を休館した。また、夏季の節電のため6月30日～10月8日は、黒田記念館を休館した。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>ア 計画に従い、定期的な陳列替を実施した(4,914件)。</p> <p>イ 陳列総件数(7,394件)。</p> <p>ウ 展示ケースの修理点検、保存環境の向上を図った。季節のイベントの際に見どころとなる作品について、表示方法を統一し、展示をより整美なものとした。また、解説パネルへのデジタルサイネージの導入、解説を補う手段としてのデジタル展示ケースなど、新たな表現手段を試行した。</p> <p>エ 東洋館展示検討ワーキンググループにおいて、展示の構成、展示台等の設計を進める一方、教育普及事業の基本方針についても討議し、「アジアの旅」をコンセプトとする基本方針を打ち出した。</p> <p>オ 32件の特集陳列を実施した。</p> <p>カ 「平成23年 新指定 重要文化財」を実施した(4月26日～5月8日)。</p>								
<p>【補足事項】</p> <p>※陳列替については、23年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東洋館は改修工事のため通年休館した。東洋美術・考古の代替展示を行っていた表慶館は、東洋館リニューアル準備に伴う物品移動のため23年12月26日より休館し、日本美術を展示する本館の一部にて引き続き、東洋美術・考古の特集展示を随時実施した。</li> </ul>								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	19	20	21	22
平常展来館者数(23年度より黒田記念館を含む)	324,597人	362,470人	B		334,297	412,675	330,536	373,068
陳列替件数	4,914件	4,000件程度	A		319	319	316	290
陳列総件数	7,394件	5,500件程度	A		10,223	7,172	6,601	5,610
特集陳列等実施回数	32件	—	—		84	79	66	53
総合評価	S (A) B C F(S、Fの理由)							
<p>【中期計画記載事項】</p> <p>平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ①-1 平常展							
<p>【年度計画】 (4館共通) 平常展来館者数について、22年度末の大震災の影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。 (京都国立博物館) 平常展示館建替工事に伴い、平常展は休止する。これに替えて、静岡県立美術館にて「京都国立博物館名品展京都千年の美系譜 - 祈りと風景」を開催(特別協力、10月22日～12月4日)するとともに、細見美術館にて当館所蔵品による特別展「宮廷のオートクチュール」を開催する。(特別協力、10月1日～11月27日)また、博物館・美術館への収蔵品の貸与を積極的に進め、ウェブサイトで情報を公開する。</p>								
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 久保智康					
<p>【実績・成果】 (4館共通)  (京都国立博物館) 平常展示館建替工事にともない、平常展示を休止した。 そのため次のように、館外での収蔵品の公開に努めるとともに、貸出作品の情報をHPで公開した。 ・「京都国立博物館名品展京都千年の美系譜 - 祈りと風景」(静岡県立美術館、10月22日～12月4日)への特別協力(詳細は処理番号2122-5を参照。) ・「典雅なる御装束—宮廷のオートクチュール」(細見美術館、10月1日～11月27日)への特別協力(詳細は処理番号2122-6を参照。) ・国内外の博物館・美術館への収蔵品の貸与を積極的に進めた。</p>								
<p>【補足事項】 ・展示館建替に伴い「貸出し停止」措置をとる博物館・美術館が多い中、当館は積極的に貸出を行い、収蔵品の公開に努めた。 ・HPにおける貸出作品の情報公開(トップページ「館外での作品公開」)は、寄託作品や個人名を伏せるなどして、網羅的なリストを提示している。このような情報公開は、日本の博物館ではきわめて画期的なものといえる。  ※京博については実績はないが、陳列替については、23年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更した。</p>								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	19	20	21	22
平常展来館者数	—	—	—		165,080	141,965	—	—
陳列替件数	—	—	—		53	39	—	—
陳列総件数	—	—	—		1,611	1,081	—	—
特集陳列等実施回数	—	—	—		7	4	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
<p>【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、京都国立博物館においては、耐震化を図るための平常展示館建て替え終了後、国際文化観光都市・京都において京都文化発信の核となる博物館を目指した平常展を平成26年度までに開催する。</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 奈良国立博物館処理番号 2113-1-1

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ①-1 平常展 (1/2)							
<p><b>【年度計画】</b>  (4館共通)  平常展来館者数について、22年度末の大震災の影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。  (奈良国立博物館)  ア 活発な収集と新しい資料の発掘により名品展(平常展)の充実を図る。  ・西新館 考古・絵画・書跡・工芸部門の名品展  昨年度の耐震工事に伴い、展示ケースや照明等の設備を一新したところであり、この充実した設備を最大限活用し、より快適な鑑賞環境を提供する。  ・なら仏像館(1~13室) 彫刻部門の名品展  昨年度実施した照明設備工事により、より魅力ある展示が行える空間となったことを活かし、奈良を中心に伝来した優れた仏像等彫刻の美をアピールしていく。  ・青銅器館(中国青銅器の名品展)  昨年度実施したリニューアル工事の成果を活かし、国内における屈指の青銅器コレクションの魅力をアピールしていく。  ・特集展示コーナー等を設け、観覧者の関心を喚起する。  イ~エ(略)</p>								
担当部課	学芸部企画室	事業責任者	美術室長兼列品室長 岩田茂樹					
<p><b>【実績・成果】</b>  (4館共通)  平常展来館者数は、今年度の目標値となっていた前中期計画期間の年度平均を上回った。  (奈良国立博物館)  ア 新装となった展示室の快適な展示環境のもとで、多数の優れた作品を名品展において展示し、その美を伝えることができた(西新館、なら仏像館、青銅器館)。  また、最近5年間の新規収蔵品を紹介する「新収蔵品展」を試みるとともに、小テーマを設けての特集展示を下記のとおり4度にわたって実施した(西新館)。  「新収蔵品展」(9月13日~10月2日) 陳列件数27件  特集展示「新たに修理された文化財」(12月6日~12月25日) 陳列件数14件  〃 「龍」(12月27日~平成24年1月15日) 陳列件数18件  〃 「経典を写す・刻む・飾る」(平成24年1月24日~2月19日) 陳列件数12件  〃 「東北の古瓦―泉官衙遺跡を中心に―」(平成24年2月28日~3月18日) 陳列件数6件  所蔵者である寺院において仏堂の改修、建て替え等を行う際、堂内に安置されている仏像を当館で保管する機会を利用し、以下のようにこれを特別公開した(なら仏像館)。  特別公開「海住山寺本尊 十一面観音像」(4月26日~9月11日)  〃 「東大寺法華堂 金剛力士像」(平成22年7月22日~平成23年9月11日)  〃 「金剛寺 降三世明王坐像」(10月4日~平成24年3月31日)  〃 「大和高田・弥勒寺 弥勒仏坐像」(10月4日~平成24年1月29日)</p>								
<p><b>【補足事項】</b>  年度を通して、国宝・重要文化財を多数含む高水準の仏教美術の展観を行うことができた。  特集展示は昨年度より1回多い4回となり、干支にちなんだ「龍」や東日本大震災に関連しての「東北の古瓦」など、時宜に即した陳列も行うことができた。  寺院における改修、改築に際して、寺院より本尊等重要な仏像の一時寄託を受け、これを特別公開する機会が増えている。安全な避難先として当館が認識されていることを物語るものと思うが、このような機会を生かし、ふだんあまり公開されない作品を一般に公開することができた。</p>								
<b>【定量的評価】</b> 項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
平常展来館者数	130,839人	118,032人	A		131,336	112,849	136,672	71,566
総合評価	S <b>Ⓐ</b> B C F(S、Fの理由)							
<p><b>【中期計画記載事項】</b>  平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展覧事業の充実 ①-1 平常展 (2/2)								
<p>【年度計画】  (4館共通)  (奈良国立博物館)  ア(略)  イ 定期的な陳列替の実施(年400件程度)  ウ 陳列総件数 約700件  エ 特別陳列により名品展の充実を図る。  独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実  ・「初瀬にまずは与喜の神垣—與喜天満神社の秘宝と神像—」(7月16日～8月28日)  ・「おん祭と春日信仰の美術」(12月上旬～平成24年1月中旬)  ・「お水取り」(平成24年2月上旬～3月中旬)</p>									
担当部課	学芸部企画室	事業責任者	美術室長兼列品室長 岩田茂樹						
<p>【実績・成果】  (奈良国立博物館)  イ 陳列替件数は、当初予定の400件を超える481件を数えた。  ウ 陳列総件数は、当初予定の700件を大きく超える1,092件に達した。  エ 特別陳列「初瀬にまずは与喜の神垣」(7月16日～8月28日) 陳列件数 45件  // 「おん祭と春日信仰の美術」(12月6日～平成24年1月15日) 陳列件数 62件  // 「お水取り」(平成24年2月11日～3月18日) 陳列件数 65件</p>									
<p>【補足事項】  特集展示・特別陳列等を除き、通常の名品展(平常展)における各会場毎の陳列件数は次のとおり。  珠玉の仏たち(なら仏像館)164件  珠玉の仏教美術(西新館) 423件  中国古代青銅器(青銅器館)256件  ※陳列替については、23年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更した。</p>									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
陳列替件数		481件	400件程度	A		21	12	8	101
陳列総件数		1,092件	700件程度	S		928	605	717	340
特集陳列等実施回数		12回	—	—		10	6	8	5
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
<p>【中期計画記載事項】  平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

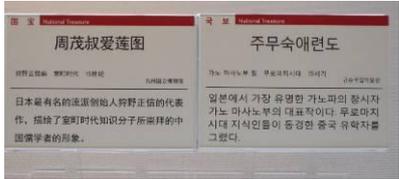
【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 2114-1

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展覧事業の充実 ①-1 平常展								
【年度計画】 (4館共通) 平常展来館者数について、22年度末の大震災の影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。 (九州国立博物館) ア 定期的な陳列替の実施(年1, 100件程度) イ 陳列総件数 約1,700件 ウ 文化交流展(平常展)の部分的なりニューアルによって充実を図る。 エ トピック展示により、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマを掘り下げる(日程はいずれも予定)。 ・「日本とタイ ふたつの国の巧と美」(関連9～11室 4月12日～6月5日) ・「館蔵水墨画名品展」(関連11室 9月28日～11月6日) ・「檀王法林寺展」(仮称)(関連9、10室 11月1日～12月11日)等									
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	文化交流展室長 河野一隆						
【実績・成果】 (4館共通) 平常展来館者数は、大震災等の影響もあり、前中期計画期間の年度平均を確保することができなかった。 (九州国立博物館) ア 定期的かつ計画的に陳列替えを実施し、1,373件の陳列替えを実施した。 イ 陳列総件数は2,417件を数え、目標値を大きく上回った。 ウ 他館と共催あるいは連携した事業展開を積極的に進めると同時に、館蔵品研究と展示における成果公表も行なった。 エ 独創的な着想に基づいたトピック展示・特別公開を13回開催し、新鮮な展示を提供することができた。									
【補足事項】 エ 23年度に開催したトピック展示・特別公開のうち、特に注目すべき内容を持つものについて以下に記す。 ・「日本とタイ ふたつの国の巧と美」(関連9～11室 4月12日～6月5日) 平成22年度にタイ・バンコク国立博物館で開催した文化庁海外展の帰国展。イベント等と連携して日タイの文化交流を強く印象付ける機会となった。 ・「彫漆」(関連9室, 6月14日～7月31日) 館蔵品に東京国立博物館からの管理換え品を加え、最新研究成果を披露する初の試みとして開催した。 ・「斉明天皇と飛鳥」(関連8室, 7月20日～8月28日) 最新発掘成果の紹介を軸として、シンポジウム等と連動して開催した。九州とも縁が深いテーマであり、多くの来館者が見られた。 ・「館蔵水墨画名品展」(関連11室 9月28日～11月6日) 館蔵品に限定して一堂に紹介し、九博のコレクションの歩みを分かりやすく印象的に示し、たいへん好評を博した。 ・「九州最古の狩人とその時代」(基本展示・関連1室 10月29日～12月18日) 九州歴史資料館で開催した「日本列島発掘展 2011」に連動した、地域展。トピック展示としては初の旧石器時代をテーマとし、最新研究成果が示された。 ・「琉球と袋中人」(関連9、10室 11月1日～12月11日) 京都と琉球の文化交流に注目したトピック展示。イベントとも連携し、好評を博した。 ※平常展来館者数については、平成17年度～平成22年度は観覧券販売枚数による計数方法だったが、平成23年度より実来館者数の計数方法に統一した。 ※陳列替については、23年度より定量的評価の項目を陳列替回数から陳列替件数に変更した。									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
平常展来館者数		358,366人	380,690人	B		341,282	241,423	544,661	274,545
陳列替件数		1,373件	1,100件程度	A		375	386	431	334
陳列総件数		2,417件	1,700件程度	A		2,012	3,146	2,106	1,668
特集陳列等実施回数		13回	—	—		5	17	22	12
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

トピック展示「日本とタイ  
ふたつの国の巧と美」トピック展示「館蔵水墨画  
名品展」会場風景

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ①-2 展示説明の充実							
【年度計画】 (4館共通) 1) 作品キャプションについては全てに英語訳を付す。 2) 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。								
担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	列品管理課長 富田 淳 美術室長兼列品室長 岩田茂樹 企画課文化交流展室長 河野一隆					
【実績・成果】 1) 東京国立博物館、奈良国立博物館及び九州国立博物館の展示説明において作品キャプションすべてに英語訳を付した。 2) 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を各館とも80%以上設置した。 (東京国立博物館) 展示テーマ数115件のうち、110件(96%)について外国語パネルを設置した。また、38件(33%)については中・韓国語での解説も付している。 (奈良国立博物館) 展示テーマ数36件のうち、32件(89%)について外国語パネルを設置した。 (九州国立博物館) 展示テーマ数49件のうち、46件(94%)について外国語パネルを設置した。また、27件(55%)については中・韓国語での解説も付している。								
【補足事項】 ・京都国立博物館は平常展示館建替工事にともない、平常展示は休止しているが英語訳を付けるべく作業を行っている。  (九州国立博物館) ・トピック展示「館蔵水墨画名品展」では主な作品については3ヶ国語の解説題箋をケース内に掲出し、アジア圏からの来館者サービスの向上に努めた。								
				 <p>トピック展示「館蔵水墨画名品展」 中・韓題箋 (九州国立博物館)</p>				
				 <p>3ヶ国語に対応したテーマ 表示題箋 (九州国立博物館)</p>				
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	19	20	21	22
外国語パネル等の設置								
東京国立博物館	96%	80%以上	A		95%	97%	97%	96%
京都国立博物館	—	—	—		100%	100%	—	—
奈良国立博物館	89%	80%以上	A		56%	77%	91%	84%
九州国立博物館	94%	80%以上	A	63%	82%	82%	83%	
総合評価	S ① B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 展示に関する説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに英語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 東京・京都・奈良・九州国立博物館

処理番号 2120

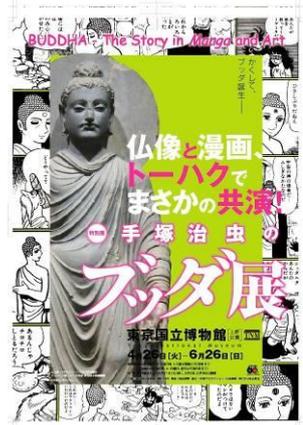
中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展							
<b>【年度計画】</b> 特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度 (京都国立博物館) 年2～3回程度 (奈良国立博物館) 年2～3回程度 (九州国立博物館) 年2～3回程度								
担当部課	東京国立博物館学芸企画部企画課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	学芸企画部長 松本伸之 企画室長 久保智康 部長 西山 厚 課長 小泉恵英					
<b>【実績・成果】</b> (東京国立博物館)特別展を7回開催した。 (京都国立博物館)特別展を6回開催した。 (奈良国立博物館)特別展を3回開催した。 (九州国立博物館)特別展を5回開催した。								
<b>【補足事項】</b>								
<b>【定量的評価】</b> 項目	23年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	19	20	21	22
特別展等の開催回数								
東京国立博物館	7回	年3～4回程度	S		5	8	12	10
京都国立博物館	6回	年2～3回程度	S		3	3	5	5
奈良国立博物館	3回	年2～3回程度	A		3	4	3	4
九州国立博物館	5回	年2～3回程度	S	4	4	4	5	
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
<b>【中期計画記載事項】</b> 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度 (京都国立博物館) 年2～3回程度 (奈良国立博物館) 年2～3回程度 (九州国立博物館) 年2～3回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (1/7)							
【年度計画】								
ア 特別展「写楽」(5月1日～6月12日) 写楽作品を集成し、写楽の歴史的な意義及びその芸術性などを改めて考察。 (目標来館者数16万人)								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長 田沢 裕賀					
【実績・成果】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会 期 平成23年5月1日(日)～6月12日(日)(41日間)</li> <li>・会 場 平成館特別展示室第1～4室</li> <li>・主 催 東京国立博物館、東京新聞、NHK、NHK プロモーション</li> <li>・協 力 国際浮世絵学会</li> <li>・後 援 文化庁</li> <li>・協 賛 日本写真印刷、みずほ銀行、三井物産</li> <li>・輸送協力 日本航空</li> <li>・作品件数 286件(うち重要文化財：22件、重要美術品：19件)</li> <li>・来館者数 229,625人</li> <li>・入場料金 一般1,500円(1,300円/1,200円)、大学生1,200円(1,000円/900円)、 高校生900円(700円/600円)中学生以下無料 *( )内は前売り/20名以上の団体料金</li> <li>・アンケート結果 満足度 80%</li> </ul> <p>写楽の現存遺品を可能な限り集成して展示できたことで、写楽の歴史的な意義及びその表現の特質などを明らかにすることができた。</p>								
【補足事項】								
東日本大震災によって当初予定されていた会期の変更を余儀なくされ、海外作品の出品が困難な事態となったが、所蔵者の協力並びに関係者の尽力によって、概ね予定の作品を展示することができた。								
 <p>重要文化財 三代目大谷鬼次の江戸兵衛 東洲斎写楽筆 東京国立博物館蔵</p>								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	229,625人	160,000人	A		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。								
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 2121-2

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (2/7)							
【年度計画】								
イ 「手塚治虫のブッダ展」(4月26日～6月26日) 手塚治の漫画「ブッダ」のオリジナル原画とともに、仏陀にかかわる文化財によって仏伝を紹介。 (目標来館者数7万人)								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部長 松本 伸之					
【実績・成果】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会 期 平成23年4月26日(火)～6月26日(日)(57日間)</li> <li>・会 場 本館特別5室</li> <li>・主 催 東京国立博物館、東映、TBS</li> <li>・協 力 手塚プロダクション、日本通運、財団法人全日本仏教会、ニトリ、カラーキネティクス・ジャパン</li> <li>・後 援 文化庁、読売新聞社</li> <li>・作品件数 72件(うち重要文化財:6件)</li> <li>・来館者数 99,088人</li> <li>・入場料金 一般800円(700円)、大学生600円(500円)、高校生400円(300円) 中学生以下無料 * ( )内は前売りおよび20名以上の団体料金</li> <li>・アンケート結果 満足度 63%</li> </ul> <p>手塚治虫の漫画「ブッダ」のオリジナル原画とともに、仏陀にかかわる文化財によって仏伝を展覧した。当館でははじめての試みである漫画をわかりやすく展示することで、幅広い年齢層に対し、文化財への一層の関心を高めることができた。</p>								
【補足事項】								
 <p>展覧会チラシ</p>								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	99,088人	70,000人	A	—	—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
<p>特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。</p> <p>特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。</p> <p>(東京国立博物館) 年3～4回程度</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (3/7)							
【年度計画】								
ウ 「空海と密教美術」展(7月20日～9月25日) 空海が広めた密教文化について、空海と同時代の文化財の特色等を広く一般に紹介。 (目標来館者数24万人)								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	博物館教育課教育講座室長 丸山 士郎					
【実績・成果】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会 期 平成23年7月20日(水)～9月25日(日)(61日間)</li> <li>・会 場 平成館特別展示室第1～4室</li> <li>・主 催 東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHK プロモーション</li> <li>・特別協力 総本山仁和寺、総本山醍醐寺、総本山金剛峯寺、総本山教王護国寺(東寺)、総本山善通寺、遺迹本山神護寺</li> <li>・協 力 真言宗各派総大本山会、南海電気鉄道</li> <li>・協 賛 あいおいニッセイ同和損保、きんでん、大日本印刷、トヨタ自動車、非破壊検査</li> <li>・作品件数 99件(うち国宝:52件、重要文化財:46件)</li> <li>・来館者数 550,399人</li> <li>・入場料金 一般1,500円(1,300円/1,200円)、大学生1,200円(1,000円/900円)、高校生900円(700円/600円) 中学生以下無料 * ( )内は前売り/20名以上の団体料金</li> <li>・アンケート結果 満足度77%</li> </ul> <p>空海が広めた密教文化について、真言各派に残る空海ないし同時代の文化財を展観し、さらに仏像曼荼羅を構成する東寺講堂の諸仏を展示したことなど、真言密教の造形を広く一般に紹介することができた。</p>								
【補足事項】								
会期中、作品に関わる事故が生じ、当該作品の万全な手当てを施した後、事故原因を徹底的に検討した。さらに、作品の取り扱いに関わる研究員に対して、研修の機会を設け、全館的に質の向上を資することとした。								
展覧会ポスター								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	550,399人	240,000人	S		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
<p>特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。</p> <p>特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。</p> <p>(東京国立博物館) 年3～4回程度</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 東京国立博物館処理番号 2121-4

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (4/7)							
【年度計画】								
エ 開館5周年記念特別展「加賀前田家と金春流」(10月1日～11月20日) 会場：金沢能楽美術館 東京国立博物館所蔵の金春座に伝来した能面と能装束を紹介。								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員 小山弓弦葉					
【実績・成果】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会名 金沢能楽美術館 開館5周年記念特別展「東京国立博物館所蔵 金春座伝来 能面・能装束」</li> <li>・会 期 平成23年10月1日(土)～11月20日(日)(43日間)</li> <li>・会 場 金沢能楽美術館2階展示室</li> <li>・主 催 東京国立博物館、金沢能楽美術館 [(公財)金沢芸術創造財団]</li> <li>・作品件数 46件(うち重要文化財：16件)</li> <li>・来館者数 8,206人</li> <li>・入場料金 一般・大学生300円 65歳以上200円 高校生以下無料 団体(20名以上)250円</li> </ul> <p>当館が所蔵する金春座伝来の能面や能装束などをまとめて紹介したことにより、加賀藩の能の原点である金春流の能を改めて見つめ直す貴重な機会となった。</p>								
【補足事項】								
本展における来館者数は、同館における過去最高のものとなった。								
								
会場展示風景								
【定量的評価】								
項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	8,206人	—	—		—	—	—	—
総合評価	S <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">A</span> B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
<p>特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。</p> <p>特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。</p> <p>(東京国立博物館) 年3～4回程度</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (5/7)								
【年度計画】									
オ 法然上人800回忌・親鸞上人750回忌 特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」(10月25日～12月4日) 浄土宗・浄土真宗の開祖にちなむ歴代の寺宝を一堂に集めて展観。 (目標来館者数10.8万人)									
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	博物館情報課長 高橋 裕次						
【実績・成果】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会 期 平成23年10月25日(火)～12月4日(日)(36日間)</li> <li>・会 場 平成館特別展示室第1～4室</li> <li>・主 催 東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社</li> <li>・後 援 文化庁</li> <li>・協 賛 トヨタ自動車、日本写真印刷、三井住友海上火災保険</li> <li>・特別協力 知恩院、増上寺、金戒光明寺、知恩寺、清浄華院、善導寺、光明寺(鎌倉市)、善光寺大本願、光明寺(長岡京市)、禅林寺、誓願寺、遊行寺、西本願寺、京都 東本願寺、専修寺、佛光寺、興正寺、錦織寺、毫摂寺、誠照寺、専照寺、證誠寺</li> <li>・作品件数 189件(うち国宝：11件、重要文化財：83件)</li> <li>・来館者数 212,150人</li> <li>・入場料金 一般1,500円(1,300円/1,200円)、大学生1,200円(1,000円/900円)、高校生900円(700円/600円) 中学生以下無料 * ( )内は前売り/20名以上の団体料金</li> <li>・アンケート結果 満足度68%</li> </ul> <p>鎌倉仏教を代表する二つの宗派の宗祖となった法然と親鸞ゆかりの名宝を一堂に集め展示したことで、浄土教の二大宗祖である二人の考え方や人物像について、理解をより深めることができた。</p>									
【補足事項】									
展覧会の開催にあたって、作品選定等に長時間の調整が必要とされる企画内容であったため、共催社間、館内において情報が錯綜した点があり、より一層の迅速な情報の共有が求められた。						 <p>展覧会チラシ</p>			
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数		212,150人	108,000人	S		—	—	—	—
総合評価	S <b>Ⓐ</b> B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】									
<p>特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。</p> <p>特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。</p> <p>(東京国立博物館) 年3～4回程度</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

【書式A】

施設名 東京国立博物館処理番号 2121-6

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (6/7)								
【年度計画】	カ 日中国交正常化40周年 東京国立博物館140周年 特別展「北京故宫博物院200選」(平成24年1月2日～2月19日) 北京故宫博物院が所蔵する書画、工芸品等の優品を展示。 (目標来館者数15.2万人)								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部列品管理課長 富田 淳						
【実績・成果】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会 期 平成24年1月2日(月・休)～2月19日(日)(43日間)</li> <li>・会 場 平成館特別展示室第1～4室</li> <li>・主 催 東京国立博物館、故宫博物院、朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション</li> <li>・特別協力 毎日新聞社</li> <li>・後 援 外務省、中国大使館</li> <li>・協 賛 三井物産、凸版印刷、あいおいニッセイ同和損害保険、華為技術日本(ファーウェイ・ジャパン)、竹中工務店</li> <li>・協 力 全日本空輸、東京中国文化センター</li> <li>・作品件数 200件(うち一級文物90件)</li> <li>・来館者数 258,252人</li> <li>・入場料金 一般1,500円(1,300円/1,200円)、大学生1,200円(1,000円/900円)、 高校生900円(700円/600円) 中学生以下無料 * ( )内は前売り/20名以上の団体料金</li> <li>・アンケート結果 満足度60%</li> </ul>								
【補足事項】	<p>本展は、政府による美術品補償制度の適用を受けている。</p> <p>本展開催にあたっては、在中国日本大使館及び文化庁に多大な尽力を頂戴することとなった。</p> <p>今回初めて中国の国外での公開となった「清明上河図巻」展示にあたっては、これまでになく長い待ち時間が生じ、来館者の鑑賞環境を著しく阻害することとなった。今後より一層展示に関わる方法論を検討する必要がある。</p>								
	 <p>清明上河図巻 張沢端筆 中国・故宫博物院蔵</p>								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22	
来館者数	258,252人	152,000人	S		—	—	—	—	
総合評価	S <b>Ⓐ</b> B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】	<p>特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。</p> <p>特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。								順調	

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (7/7)							
【年度計画】 (年度計画外に実施) 特別展「孫文と梅屋庄吉—100年前の中国と日本」(7月26日～9月4日) 孫文と彼を支援した梅屋庄吉らに関わる古写真等を通じて、彼らの生きた時代の様相を展覧する。 (目標来館者数2,035万人)								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部長 松本 伸之					
【実績・成果】 ・会 期 平成23年7月26日(火)～9月4日(日)(37日間) ・会 場 本館特別5室 ・主 催 東京国立博物館、毎日新聞社 ・後 援 外務省、中国大使館 ・特別協力 小坂文乃、長崎県、長崎大学附属図書館 ・協 力 日本中華總商会、日本通運、東京スタデオ、日比谷松本楼 ・協 賛 全日本空輸、リンガーハット、小西国際交流財団 ・作品件数 249件(うち重要文化財:24件) ・来館者数 28,780人 ・入場料金 一般800円(700円)、大学生600円(500円)、高校生400円(300円) 中学生以下無料 * ( )内は前売りおよび20名以上の団体料金 ・アンケート結果 満足度52%  一般にはほとんど目に触れることがなかった貴重な資料によって、孫文と梅屋庄吉とともに激動の時代における中国や日本の様相を十分に示すことができた。								
【補足事項】 23年度年度計画にあげられていない特別展であるが、平成23年(2011)は辛亥革命100年にあたり、孫文を支援した梅屋庄吉らに関わる資料(梅屋庄吉曾孫小坂文乃氏所蔵の古写真等)を公開することができる貴重な機会が得られることとなったため、年度はじめに急遽開催が決定され実施された。								
 北京城写真 太和門 小川一眞撮影 光緒27年(1901) 東京国立博物館蔵								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	19	20	21	22
来館者数	28,780人	20,350人	A		—	—	—	—
総合評価	S ① B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調							

【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号 2122-1

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (1/6)									
【年度計画】										
ア 特別展覧会「法然上人800回忌 法然—生涯と美術—」(3月26日～5月8日) (目標来館者数 5万人) 法然の生涯と思想、法然をめぐる人々の事跡を、遺された多くの文化財によって展望する。										
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室研究員 大原 嘉豊							
【実績・成果】										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会 期 平成23年3月26日(土)～5月8日(日) (39日間)</li> <li>・会 場 特別展示館(旧本館)全室</li> <li>・主 催 京都国立博物館、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿、京都新聞社</li> <li>・陳列件数 120件(うち国宝29件、重要文化財58件)</li> <li>・来館者数 92,929人(23年度84,682人)(目標50,000人)</li> <li>・入場料金 一般1,400円、大高生900円、中小生500円</li> <li>・アンケート結果 満足度89%</li> </ul> <p>法然上人八百回忌を記念して、鎌倉新仏教の嚆矢となった法然の事績を中心にその直弟子の活動をあわせて紹介した初めての大型展覧会。法然の遺品が極めて限られていることから、従来、単独テーマでの大規模展開催が困難であったが、当館の独自調査と浄土宗十二本山による浄宗会の全面的協力により、開催が可能となった。開催直前に東日本大震災が発災し集客では苦戦を余儀なくされたが、時局に即した宗教的テーマであったこともあり、来館者の関心も高く、目標来館者数を達成することができた。</p>										
【補足事項】										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催直前に東日本大震災が発災し、開催自体が危惧されたが、当初予定会期で、かつ若干の展示期間の変更はあったものの予定作品の全てを出展した。特に、被災地であった茨城県銚田市の無量寿寺を初め関東方面では関係者の絶大な協力を得ることができた。また、アメリカ・クリブランド美術館からも理解を得て展示が実現したことは新聞でも報道され、「絆」を象徴する明るい話題を提供した。また、京都で予定されていた浄土宗の大遠忌事業が延期され、宗門の団体参拝客のキャンセルが相次いだため、集客も危惧されたが、最終的に9万3千人弱と善戦し、収支の上でも問題なく終えることができた。</li> <li>・本展は、同じNHKを主催として23年度秋季に東京国立博物館で開催された特別展覧会「法然と親鸞」と密接な連携をとってはいたが、企画内容を異にし双方の館が独自性を発揮することができ、学術的に高い評価を得ることができた。特に、本展では当館独自調査に基づく新発見作品も二点初公開され、一般からも好評を得た。</li> <li>・本展図録は、史料翻刻を多くし、学術性と一般の便宜との調和を主眼としたもので、図録の販売率は9.2人に1冊という極めて高い数値で好成績をおさめ、また内容も高い評価を得ることができた。</li> </ul>									法然展 会場風景	
【定量的評価】										
項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22		
来館者数	92,929人	50,000人	S		—	—	—	—		
総合評価	㊟ A B C F (S、Fの理由) 東日本大震災発災直後にもかかわらず、海外を含めた展示予定作品を全て展示し、集客においても目標値の倍に迫る数値を達成した。また、図録の販売率の高さが裏付けるように、一般来館者からも内容に対して高い評価を受けることができた。									
【中期計画記載事項】										
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (京都国立博物館) 年2～3回程度										
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (2/6)							
【年度計画】								
イ 特別展観「百獣の樂園 —美術にすむ動物たち—」(7月16日～8月28日) (目標来館者数 2万人) 当館の収蔵品の中から、制作年代や書画・彫刻・工芸といった表現の違いを越えて、日本で愛されてきた動物たちの姿をいきいきと展観する。								
担当部課	学芸部連携協力室	事業責任者	主任研究員 永島明子					
【実績・成果】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会 期 平成 23 年 7 月 16 日(土)～8 月 28 日(日) (38 日間)</li> <li>・会 場 特別展示館(旧本館)全室</li> <li>・主 催 京都国立博物館</li> <li>・共 催 京都新聞社、NHK 京都放送局</li> <li>・協 力 京都市動物園</li> <li>・陳列件数 117 件(うち国宝 3 件、重要文化財 25 件)</li> <li>・来館者数 35,259 人(目標 20,000 人)</li> <li>・入場料金 一般 1,000 円、大高生 700 円、中小生無料</li> <li>・アンケート結果 満足度 93%</li> </ul> <p>当館の 12,000 件を超える収蔵品の中から、動物を扱った作品を選びすぐった初の動物特集。平常展示館の建て替え工事の合間に出番の減った作品を活用することができ、日ごろ美術になじみのない人々にも親しみやすい展示となった。また、京都市動物園の協力を得て、自然科学の視点を加味して収蔵品を見直す機会ともなった。</p>								
【補足事項】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの年齢分布で 20 才以下の観覧者が著しく多かった。(46%)</li> <li>・夏休みの動物特集展は他館でも開かれてきたが、国立博物館の収蔵品のような質の高い古美術品によるものは類がなく、子供ばかりか大人の古美術愛好家にも充分に楽しめる展示となり、その点がインターネット上でも高く評価されていた。</li> <li>・京都市動物園は当館同様に古い歴史を持つが、両者の協力事業は今回が初めてとなった。展覧会期間中、動物園では「百獣の樂園 in 京都市動物園」と題し、動物の檻の前に当館で展示中の作品数点の写真パネルが展示され、実際の動物と美術品のなかの動物の姿を比べることができるようになっていた。</li> <li>・京都市動物園との連携協力の一環として、動物園の研究員に展覧会図録にエッセイを寄稿してもらい、また、当館と動物園とのあいだで研究員による講演会の交換を行った。個々の作品の解説にあたっては、動物園の研究員から動物の生態に関するコメントをもらい、当館の研究員がこれを参考にして執筆した。当館の研究員にとっても作品を新たな視点で見直す機会となった。</li> <li>・当館が定期的に行っている「少年少女博物館くらぶ」のイベントとして、小中学生を対象とした当館研究員によるギャラリートツアー「まるまるアニマル」をこの展覧会の期間中に 2 回行い、大好評を得た。</li> <li>・古美術への親しみやすさを重視して、解説文も日ごろとは異なるかみ砕いた表現の短文とした。これも当館としては初の試みであり、好評を得た。</li> <li>・東洋の古美術を海外の方々にも親しんでもらえるよう、解説文を英語に全訳した。</li> <li>・収蔵品のみを用いた展示であるため平常展費用で行ったが、印刷会社の特別協力(寄付)を得て、出品作品全ての図版と解説を含む B5 版のオールカラー・バイリンガル図録を作成し、安価に提供することができた。</li> <li>・図録はプロのデザイナーによる洗練された図書制作、カラー図版の丁寧な色校正、完全バイリンガルとした翻訳などが評価され、香港大学出版から海外の独占販売権の契約が申し入れられ、契約が締結された。</li> </ul>								
								
特別展観「百獣の樂園—美術にすむ動物たち—」チラシ								
【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	35,259 人	20,000 人	S	—	—	—	—	—
総合評価	⑤ A B C F (S、F の理由)収蔵品の活用、高い費用回収率、新たな客層の開拓							
【中期計画記載事項】								
<p>特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。</p> <p>特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。</p> <p>(京都国立博物館) 年 2～3 回程度</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調							

【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号 2122-3

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (3/6)								
【年度計画】 ウ 特別展覧会「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション－」(10月8日～11月23日) (目標来館者数 5万人) 旧熊本藩主であった細川家の宝物を厳選し展観する。									
担当部課	学芸部	事業責任者	連携協力室 主任研究員 浅湫 毅						
【実績・成果】 ・会 期 平成23年10月8日(土)～11月23日(水・祝)(40日間) ・会 場 特別展示館(旧本館)全室 ・主 催 京都国立博物館、永青文庫、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿、朝日新聞社 ・陳列件数 244件(うち国宝8件、重要文化財28件) ・来館者数 106,536人(目標50,000人) ・入場料金 一般1,400円、大高生900円、中小生500円 ・アンケート結果 満足度91% 旧熊本藩主である細川家のコレクションを収集展示する永青文庫(東京・目白台)の創立60周年を契機として、東京、京都、九州の3国立博物館で開催された大規模巡回展。細川家の歴史にとどまらず、戦国武将たちの美に対する高い意識にも焦点をあてた展覧会で、ひいては茶の湯、能・狂言といった日本文化を代表する美の世界を広く紹介する機会となった。									
【補足事項】 ・当館および東京国立博物館、九州国立博物館が、3年以上にわたる時間をかけ、80,000点を超える永青文庫の所蔵品を調査した。そのなかから国宝、重要文化財に指定される名品はもとより、これまで一般にはあまり知られていない収蔵品にも光をあてて、所蔵館である永青文庫の学芸員とともにそれらの再評価を試みたうえで、作品選択を行った。また、これら調査の成果は、展覧会図録の論文、作品解説および展覧会関連講座などに反映している。 ・単に細川家の歴史をたどるのではなく、日本文化を代表する茶の湯や能・狂言などに関連する美術、工芸品にみられる、戦国武将たちの美意識という問題にも焦点をあてて展示構成を行った。 ・東京、京都、九州の3館を巡回する展覧会であるが、各館とも展示作品の選定においては、それぞれの意図により、異なる作品選定を行った。コレクション全般を満遍なく紹介する東京、熊本藩主としての細川家に重きを置く九州の展示とは異なり、当館においては、織田信長のもとで初代の細川藤孝(幽斎)が頭角をあらわしたのが、京都の長岡城を居城としていた時期であるという歴史に鑑み、京都と細川家の関わりに重点を置いて、作品選定を行った。 ・京都と細川家のかかわりに重点を置いた展示をより充実させるため、京都の社寺を中心とする、永青文庫以外の所蔵者からも11件の作品を借用した。 ・「美の世界では、天下人」という展覧会のキャッチコピーは、専門業者ではなく博物館で独自に作成したが、このような発想も充実した所蔵品調査の結果から生まれたもので、展覧会の内容をよく反映したものであった。同コピーはインターネット上の展覧会評などでも好評であった。 ・これらの努力の結果、来館者は10万人を超えることとなり、一大名家のコレクションによって構成される展覧会で、関西で開催されたものとしては、異例ともいえる来館者数であったと評価できる。									
特別展覧会「細川家の至宝」チラシ									
									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数		106,536人	50,000人	S		—	—	—	—
総合評価	㊟ A B C F(S、Fの理由) 十分な準備期間を経て開催された展覧会であり、その成果が展覧会に十分に反映されたものであった。その結果来館者数も目標の2倍を数え、アンケートをはじめとする内容の評価も極めて高かったため。								
【中期計画記載事項】 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (京都国立博物館) 年2～3回程度									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (4/6)							
【年度計画】								
エ 特別展覧会「中国近代絵画と日本」(平成24年1月7日～2月26日) (目標来館者数 2万人) 中国の近代を中心に活躍した呉昌碩、齊白石、高剣父、徐悲鴻等の絵画作品を展示し、近代における日中文化交流の一面を展観する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 西上 実					
【実績・成果】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会 期 平成24年1月7日(土)～2月26日(日) (44日間)</li> <li>・会 場 特別展示館 全室</li> <li>・主 催 京都国立博物館</li> <li>・陳列件数 226件(うち海外借用分は34件)</li> <li>・来館者数 13,286人(目標20,000人)</li> <li>・アンケート結果 満足度94%</li> </ul> <p>当館が近年受贈した須磨コレクションを核にした自主企画展。須磨コレクションは中国近代絵画の優品を数多く含んでおり、これまでほとんど紹介されることがなかった中国近代絵画の全体像と提示するとともに、その形成過程に隣国の日本が深く関与していたことを示した。来館者数は目標値を下回ったものの、歴史的評価がまだ困難な近代の日中文化史に脚光をあてるまたとない機会となり、また、日本の近代美術研究などにも新たなアプローチをもたらす展覧会としても国内外の研究者の注目を集めた。</p>								
【補足事項】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・当館が受贈した1,000件を超える外交官・須磨弥吉郎のコレクションの中から約150件を選別して、国内外の博物館、美術館、個人から借用した中国と日本の近代絵画の名品と合わせて展示した。従前、須磨コレクションはスペイン絵画コレクション(長崎県美術館蔵)が広く知られていたが、当展覧会を契機に近代日本における一大美術コレクションの全貌を明らかにする機会となった。</li> <li>・国際的な注目を集める中国の近代美術研究の動向にたいして、隣国日本から最新の研究成果発表の場を提示した。2009年に当館が主催した「中国近代絵画研究者国際交流集会」をはじめ、国内外の研究者との交流を積み重ねてきた実績がある。陳列作品についても、上海博物館や香港芸術館をはじめ中国、香港、台湾など多方面から借用することができたのも、このような当館の長年にわたる実績にもとづくものである。</li> <li>・展覧会関連事業として、国際シンポジウム(24年2月11日実施)と関連講座(土曜講座4回)を開催した。前者は中国やチェコからパネリストを招き、須磨コレクションと当展を多角的に検証した。後者も上海博物館や北京画院齊白石紀念館から講師を招き、日本では数少ない中国近代美術について理解する新たな機会を提供した。</li> <li>・来館者数は、目標値の2万人を下回った。一般の美術愛好者にはなじみの薄い中国の近代絵画の展観であったことや、例年に比べて冷え込みが厳しい中での開催となり、高齢者を中心に客足が鈍ったことなどが要因として挙げられる。もっとも、来館者アンケートなどからは陳列作品の水準の高さやユニークさについて好評を得たことが分かる。また、全国紙各紙を筆頭に新聞雑誌などでは展覧会紹介や展評が掲載されており、展示内容自体は高い評価を受けている。今後、国立博物館として要求される専門性の高い展示内容を確保しつつ、潜在的な来館者、とくに若年層などへの広報・教育体制の強化が課題として浮かび上がった。</li> </ul>								
								
特別展覧会「中国近代絵画と日本」チラシ								
【定量的評価】								
項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	13,286人	20,000人	C		-	-	-	-
総合評価	S (A) B C F(S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
<p>特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。</p> <p>特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。</p> <p>(京都国立博物館) 年2～3回程度</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調							

【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号 2122-5

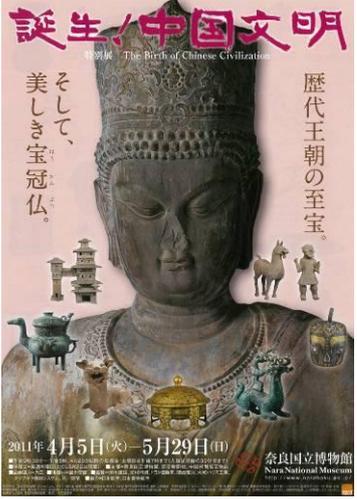
中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (5/6)							
【年度計画】	<p>平常展示館建替工事に伴い、平常展は休止する。これに替えて、静岡県立美術館にて「京都国立博物館名品展京都千年の美系譜 - 祈りと風景」を開催(特別協力、10月22日～12月4日)するとともに、細見美術館にて当館所蔵品による特別展「宮廷のオートクチュール」を開催する。(特別協力、10月1日～11月27日) (年度計画2(1)①-1 平常展)</p>							
担当部課	学芸部	事業責任者	アソシエイトフェロー 水谷亜希					
【実績・成果】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会名 京都国立博物館名品展京都千年の美系譜 - 祈りと風景</li> <li>・会 期 平成23年10月22日(土)～12月4日(日)(39日間)</li> <li>・会 場 静岡県立美術館</li> <li>・主 催 静岡県立美術館、静岡第一テレビ</li> <li>・特別協力 京都国立博物館</li> <li>・陳列品総件数 66件(うち国宝6件、重要文化財22件、重要美術品5件)</li> <li>・来館者数 24,070人</li> <li>・入場料金 一般1,100円、高・大学生・70歳以上500円、中学生以下無料</li> </ul> <p>「祈りと風景」をテーマとして、当館収蔵品の絵画・書跡・彫刻・金工・陶磁・漆工・染織・考古の各分野から選りすぐりの優品を出品した。仏教美術の至宝や、珠玉の工芸品、山水画の名品などを通して、日本・東洋の人々が風景へ寄せた思いと、自然との交わりの中で育んできた心性を探る展覧会。「山水・風景画」を収蔵展示の核としてきた静岡県立美術館と協力し、作品の質・企画内容ともに充実した展示を、静岡市を中心とする東海地方の方々にご覧頂く機会となった。</p>							
【補足事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡県立美術館・静岡第一テレビの主催で行われた当館所蔵品による展覧会で、当館が特別協力した。</li> <li>・全作品を当館収蔵品で構成し、平常展示館建て替えに伴い中断している館蔵品公開の役割を果たす重要な機会となった。</li> <li>・展示は、開催館と当館、両者の共同作業により行い、実質的な協力関係を築くことができた。</li> <li>・図録は静岡県立美術館学芸員と当館研究員が執筆し、各作品の新たな見方を提示した。</li> <li>・会期中、山下善也連携協力室長が「きらめく京都、きらめく近世の絵画」と題した講演会を、久保智康企画室長が「京都千年の美術 - そのかざりとかたち-」と題した講演会を行った。</li> <li>・展覧会の企画に際しては、静岡県立美術館の学芸員と、当館の各分野の研究員が入念に打ち合わせを重ね、テーマ性のある充実した内容となった。</li> </ul>							
	「京都千年の美の系譜」展 チラシ							
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年 変化	19	20	21	22
来館者数	24,070人	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F(S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】	<p>特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。</p> <p>特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。</p> <p>(京都国立博物館) 年2～3回程度</p>							
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (6/6)							
【年度計画】	<p>平常展示館建替工事に伴い、平常展は休止する。これに替えて、静岡県立美術館にて「京都国立博物館名品展京都千年の美系譜 - 祈りと風景」を開催(特別協力、10月22日～12月4日)するとともに、細見美術館にて当館所蔵品による特別展「宮廷のオートクチュール」を開催する。(特別協力、10月1日～11月27日) (年度計画2(1)①-1 平常展)</p>							
担当部課	学芸部	事業責任者	主任研究員 山川 暁					
【実績・成果】	<p>・展覧会名 京都国立博物館所蔵 典雅なる御装束 - 宮廷のオートクチュール</p> <p>・会 期 平成23年10月1日(土)～11月27日(日) (50日間)</p> <p>・会 場 細見美術館</p> <p>・主 催 細見美術館、京都新聞社</p> <p>・特別協力 京都国立博物館</p> <p>・協 力 HOSOO KYOTO</p> <p>・後 援 第26回国民文化祭京都府実行委員会</p> <p>・陳列品総件数 34件(京都国立博物館所蔵品31件、細見美術館所蔵品3件) (重要美術品1件を含む)</p> <p>・来館者数 12,023人</p> <p>・入場料金 一般 1,000円、学生 800円</p> <p>現在も宮中の儀式に用いられている束帯・五衣唐衣裳(十二単)などの伝統装束を展示することにより、千年以上もの歴史に培われた、日本人の染織技術の粋と美意識を紹介した。平成23年は京都において国民文化祭が開催されたため、日本の染織工芸文化の中心であった京都で生まれ、今日の伝統産業ともなっている「きもの」に焦点を当てた展覧会が様々な博物館で開催された。本展もその一環を構成する。これらの展覧会を機に、固有の伝統文化への認識が新たにされ、創造の源泉となって、文化・産業がさらに活性化されることが期待される。</p>							
【補足事項】	<p>・細見美術館・京都新聞社の主催で行われた当館所蔵品を中心とする展覧会であり、当館が特別協力した。</p> <p>・第26回国民文化祭の協賛事業であり、京都の伝統産業である「きもの」の魅力を多面的に発信する機会となった。</p> <p>・京都国立近代美術館「〈織〉を極める 人間国宝・北村武資」、京都文化博物館「京の小袖」とともに相互に広報協力し、三館共通チケットを販売するなど、連携事業を行った。</p> <p>・展示作品のほぼ全てを当館収蔵品で構成し、平常展示館建て替えに伴い中断している館蔵品公開の役割を果たす重要な機会となった。</p> <p>・図録作成および展示に関わる作業は、開催館と当館の共同作業とし、実質的で密接な協力関係を築くことができた。</p> <p>・宮家旧蔵の伝統装束をまとめて展示し、伝統装束といえども近世から近代へ、形式も技術も変化していくことを視覚的に紹介する初めての機会となった。</p> <p>・会期中、細見美術館会場にて当館研究員がギャラリートークを行った。</p>							
	「典雅なる御装束」展 チラシ							
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
来館者数	12,023人	—	—	経年変化	—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】	<p>特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。</p> <p>特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。</p> <p>(京都国立博物館) 年2～3回程度</p>							
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調							

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号 2123-1

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (1/3)							
【年度計画】								
ア 「誕生！中国文明」(4月5日～5月29日)								
中国・河南省の全土から名品を選定し、中国文化の真髄に迫る。(目標来館者数 5万人)								
担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長 稲本泰生					
【実績・成果】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会 期 平成23年4月5日(火)～5月29日(日) (49日間)</li> <li>・会 場 奈良国立博物館東新館・西新館</li> <li>・主 催 奈良国立博物館、読売新聞社、中国河南省文物局</li> <li>・企画協力 大広</li> <li>・後 援 中国大使館</li> <li>・協 賛 清水建設、光村印刷、トヨタ自動車、関西電力、大和ハウス工業、ダイワボウ情報システム、丸一鋼管</li> <li>・協 力 日本航空、日本貨物航空</li> <li>・陳列品総数 147件</li> <li>・来館者数 35,679人</li> <li>・観覧料金 一般1,400円 高校・大学生1,000円 小・中学生500円</li> <li>・アンケート結果 満足度87%</li> </ul>								
【補足事項】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国の政治・経済・文化の中心地として長期にわたり繁栄し、古代日本との縁も深い黄河流域の河南省から、第一級の品や最新の発掘成果を多数含む文物を借用・展示し、質量両面で非常に充実した特別展となった。</li> <li>・前年度に東京国立博物館・九州国立博物館で開催された展覧会の巡回展で、史上初の三館合同企画による展覧会である。内容には平成20年以来三館が合同で行ってきた調査研究の成果が反映されており、その点でも意義深い企画となった。</li> <li>・前年度に一新された西新館の展示室及び固定ケース、新規制作した独立ケースなど最新の設備を使用し、照明機材にも工夫を凝らすなどした結果、視覚的効果の非常に高い展示を行うことができ、各方面から注目を集めた。</li> <li>・巡回展ではあるが、河南省が東大寺大仏や正倉院宝物の源流といえる地である点等を重視し、他の二会場とは異なる当館ならではの特色ある展示・広報活動を行った。会場構成上特に重視したのは高さ2.5メートルに及ぶ唐代仏教彫刻の名作・宝冠如来坐像(龍門石窟擂鼓台)であり、仏教美術の専門館らしいカラーを打ち出した。同像の写真はポスター・チラシ・看板等のデザイン、読売新聞の紙面広告等でも大きく取り上げられた。同像が本展の顔と認知されたことが、効果的な広報活動の展開につながったといえる。</li> <li>・出陳品とその背景にある文化について、来館者がより深く深い理解を得られるよう、会期中に公開講座を4回実施(うち3回の講師は当館研究員)した。</li> <li>・平成18年以来、河南博物院との間で行ってきた学術交流に伴って蓄積した調査研究の成果を展示・広報活動・講座等に反映することができた。</li> <li>・来館者数が目標値に届かなかった要因として、特別展の開催時期が東北大地震の発生から間もない時期に重なったこと、また開催当時の日中関係を取り巻く社会情勢が芳しくなかったこと等が考えられる。</li> </ul>								
								
特別展「誕生！中国文明」チラシ								
【定量的評価】								
項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	35,679人	50,000人	B		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
<p>特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。</p> <p>特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>年2～3回程度</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (2/3)							
【年度計画】								
イ「天竺へ～三蔵法師3万キロの旅」(7月16日～8月28日)								
高僧伝絵巻の傑作・国宝 玄奘三蔵絵を初めて全巻同時公開。(目標来館者数 5万人)								
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長	谷口耕生				
【実績・成果】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会 期 平成23年7月16日(土)～8月28日(日) (39日間)</li> <li>・会 場 奈良国立博物館 東・西新館</li> <li>・主 催 奈良国立博物館 朝日新聞社</li> <li>・陳列品総数 55件 (国宝4件、重要文化財14件)</li> <li>・来館者数 63,364人</li> <li>・観覧料金 一般1,200円 高・大生800円 小・中学生500円</li> <li>・図録販売数 5,284冊 (購入率8.38%)</li> <li>・音声ガイド貸出件数 6,566台(貸出率10.36%)</li> <li>・アンケート結果 満足度80%</li> </ul>								
【補足事項】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・天竺(インド)への求法を成し遂げた唐代の高僧・玄奘三蔵の生涯を全12巻に描いた高僧伝絵巻の傑作「国宝 玄奘三蔵絵」(藤田美術館所蔵)を、全巻同時公開する史上初めての試み。この魅力あふれる絵巻の全貌を通じて、玄奘が東アジア仏教史上に残した偉大な足跡をたどるとともに、そのインド求法に捧げた旅の事蹟が『西遊記』の物語へと変貌を遂げるまでの道のりを、絵画・彫刻・書跡等の名品とともに紹介した。</li> <li>・各巻17メートル近い絵巻を前期・後期を通じて全巻同時公開するにあたり、巻替えて隠れている場面の内容も知ってもらうため、全巻を掲載した縮小写真および重要場面を拡大した写真のパネルを掲載し、展示が理解しやすいとの好評を得た。</li> <li>・『大唐西域記』の内容を絵画化した法隆寺所蔵五天竺図の巨大拡大パネルを作成し、玄奘のたどった道筋を映像として投影することで、玄奘の求法の旅を視覚的に追体験してもらう展示として好評を博した。</li> <li>・図録は、玄奘三蔵絵全巻について新規に撮影した写真を掲載し、6本の論考を掲載するなど、学術的に高い評価を得るとともに、会期中の販売部数は5,284冊を数え、会期終盤には増刷も行うなど、予想以上の売り上げを記録した。</li> <li>・展示開催中に関連の公開講座(2回)および夏季講座「玄奘三蔵とシルクロード」(講師9名)を実施した。</li> </ul>								
								
				ポスター・チラシデザイン				
								
				会場風景				
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	63,364人	50,000人	A		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
<p>特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。</p> <p>特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>年2～3回程度</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調							

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号 2123-3

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (3/3)							
【年度計画】								
ウ 「第63回正倉院展」(予定)								
正倉院宝庫に伝わる宝物約70件を展示。(目標来館者数 18万人)								
担当部課	学芸部	事業責任者	工芸考古室長 内藤 栄					
【実績・成果】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会 期 平成23年10月29日(土)～11月14日(月)(17日間)</li> <li>・会 場 奈良国立博物館 東新館・西新館</li> <li>・主 催 奈良国立博物館</li> <li>・特別協力 読売新聞社</li> <li>・協 賛 NTT西日本、近畿日本鉄道、JR東海、JR西日本、ダイキン工業、大和ハウス工業、帝塚山学園・帝塚山大学、白鶴酒造</li> <li>・協 力 NHK奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、財団法人仏教美術協会、ミネルヴァ書房</li> <li>・出陳宝物数 62件</li> <li>・来館者数 239,581人</li> <li>・観覧料金 一般1,000円、大高生700円、小中生400円</li> <li>・アンケート結果 満足度73%</li> </ul>								
【補足事項】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年、宝物を展示する順番は北倉の聖武天皇遺愛品を最初に置き、最後に文書を展示していた。本年は著名な宝物を会場の前半、中盤、後半に位置させたため混雑が平均化された。また、特に人気のあった金銀鈿荘唐大刀を見る人の待ち列を廊下に誘導できたことも混雑の緩和に有効であった。また、昨年西新館のケース、内装や天井照明が一新され、鑑賞しやすい空間を提供できるようになったが、本年の展示は西新館にも名品を配置し、この館の良さを引き出すことができた。</li> <li>・題箋は例年以上に分かりやすく改良し、また用語解説パネルも作製した。</li> <li>・東新館では配線をカバーするモールがあり、年配者がつまづくなどの心配があったが、本年は可能な限りケースをコンセントの近くに配置し、モールを使わないように留意した。さらに、会場全体に天井照明を明るくし、高齢者が安心して観覧できる空間を提供した。</li> <li>・今年度は、例年以上に車椅子の観覧者が多かったように思われるため、今後、車椅子の利用者が快適に鑑賞できる工夫が求められる。</li> </ul>								
								
第63回正倉院展								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	239,581人 (17日間)	180,000人	A		248,389	263,765	299,294 (20日間)	294,804 (20日間)
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
<p>特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。</p> <p>特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>年2～3回程度</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

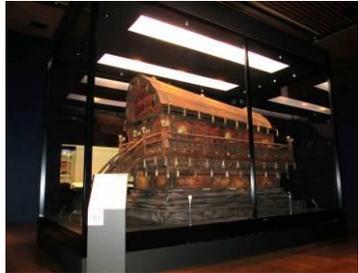
中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (1/4)							
【年度計画】								
ア 「黄檗—OBAKU」(3月15日～5月22日) 江戸時代に我が国に伝わった黄檗宗の美術を紹介。(目標来館者数 3万人)								
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	研究員	市元	壘			
【実績・成果】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会名 「黄檗—OBAKU」</li> <li>・会 期 平成23年3月15日(火)～5月22日(日)(61日間)</li> <li>・会 場 九州国立博物館 特別展示室</li> <li>・主 催 九州国立博物館・福岡県、黄檗宗大本山萬福寺、西日本新聞社、TVQ九州放送</li> <li>・陳列品総件数 142件(国宝0件、重要文化財14件)</li> <li>・来館者数 55,539人(23年度46,530人)(目標来館者数 30,000人)</li> <li>・入場料金 一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円</li> <li>・アンケート結果 満足度 88%</li> </ul>								
※江戸時代の日本にとって、黄檗は斬新な文化として迎えられた。本展では、彫刻作品を主体的に扱うことで、江戸時代の人々が抱いたであろう異文化接触の際の驚きと興奮を、会場内で再現することに成功した。								
【補足事項】								
<p>臨済宗、曹洞宗とともに日本三禅宗に数えられる黄檗宗は、承応3年(1654)、弘法のため長崎へ渡来した明の高僧・隠元隆琦(1592-1673)によって開かれ、戒律を重んじる正統な中国臨済宗の法灯と厳格な仏教儀礼を日本に伝え、当時沈滞していた日本禅宗界に新風を吹き込んだ。隠元のものには、鎖国下で大陸への留学が果たせない、求道心に燃える日本僧が参集した。その高風は幕府にも届き、隠元を日本に留めるための新寺建立が特別に許され、寛文元年(1661)、黄檗山萬福寺が京都宇治の地に開創された。</p> <p>大陸風の伽藍配置と建築意匠により建立された萬福寺では、隠元以後も渡来僧が連綿と住持を務め、中国さながらの宗教文化と生活文化が維持された。それは、隆盛時に全国千ヶ寺を越えた末寺を通じて各地にも浸透し、中国趣味の知識層にとどまらず、江戸時代の庶民の日常生活にも異国情緒あふれる彩りを添えた。</p> <p>本展は黄檗宗大本山萬福寺の開創 350周年を記念して開催したものである。展示では、萬福寺所蔵の名宝と九州を中心とする黄檗寺院所蔵の優れた仏教美術を紹介し、隠元禅師渡来前後から萬福寺開創に至る日本黄檗宗開立の歩みを、17世紀の東アジア世界という広域的な歴史のうねりのなかで捉えることを企図した。従来の黄檗美術に関する展覧会では、書や絵画が主体であったが、本展では黄檗彫刻を主体的に取り上げ、立体的な会場作りに努めた。これにより、江戸時代の人々が肌で感じた異文化の空気を、展示会場内で再現することに成功し、来館者より好評を得た。</p>								
								
				長崎諸寺に伝わる黄檗彫刻群				
								
				木魚の原形とされるハンボウ				
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	55,539人	30,000人	S		—	—	—	—
総合評価	㊟ A B C F(S、Fの理由) 馴染みの薄いテーマながら、作品選定や展示手法に工夫を凝らしたことで多くの来館者を迎えることができ、高い満足度を得た。							
【中期計画記載事項】								
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。								
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。								
(九州国立博物館)								
年2～3回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				達成				

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 2124-2

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (2/4)							
【年度計画】								
イ 「よみがえる国宝」(6月28日～8月28日) 日本の文化財保存、修理の歴史を辿り、日本人の美意識や価値観を紹介。(目標来館者数 4万人)								
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	博物館科学課長 本田光子					
【実績・成果】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会名 「よみがえる国宝 - 守り伝える日本の美」</li> <li>・会 期 平成23年6月28日(火)～8月28日(日)(54日間)</li> <li>・会 場 九州国立博物館 特別展示室</li> <li>・主 催 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州</li> <li>・陳列品総件数 77件(国宝11件、重要文化財18件)</li> <li>・来館者数 118,528人(目標来館者数 40,000人)</li> <li>・入場料金 一般 1,300円、高大生 1,000円、小中生 600円</li> <li>・アンケート結果 満足度 83%</li> </ul>								
【補足事項】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本における文化財の保存と修理をめぐる伝統的な文化を、主に作品を通じて総合的に紹介した。展示の構成は、第1章「保存 宝をまもる営み」、第2章「修理 つくろう・なおす 技とところ」、第3章「模写・模造 技ところを継ぐ」、第4章「文化財保護のはじまり 宝をまもる・いかす」の全4章からなる。</li> <li>・保存と修理の歴史について紹介するため、海外(アメリカ)からの借用作品を含む77件(国宝11件、重文18件)を展示した。とりわけ世界的にみても最高水準の技術で修理され、今日まで大切に保存されてきた源頼朝像・平重盛像、天寿国繡帳などの優品を九州で初めて展示した。</li> <li>・講演会として「守り伝える日本の宝」(7月23日、谷内弘照氏・冷泉為人氏)、セミナーとして「文化財保存交流セミナー」(7月2日、小峰幸夫氏ほか、7月31日、岡岩太郎氏・北村昭斎氏ほか、8月6日、中村一紀氏・成瀬正和氏・杉本一樹氏、8月7日、西川明彦氏・太田彩氏・室瀬和美氏、8月21日、中野三敏氏)を実施した。</li> <li>・教育普及として文化財の修理技術や保存の工夫をクイズ形式でまとめた「子どもガイド」を作成し、展示室内および近隣の小学校などで配布した。また「源頼朝像」の修理過程などをイラストでまとめたパネルを会場に設置し、修理・保存方法について理解を促した。またバックヤードツアー「大きな博物館の探検！」およびワークショップ「古本の虫と九博の杜の虫をくらべてみよう！」を開催し、夏休み期間を利用した親子で楽しむ企画を実施した。</li> </ul>								
								
			源頼朝像・平重盛像 展示風景					
								
			正倉院をイメージした会場 展示風景					
【定量的評価】								
項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	118,528人	40,000人	S		—	—	—	—
総合評価	⑤ A B C F(S、Fの理由) 当館の標榜する文化財の保存と修理に対する積極的な姿勢が、多くの観覧者に理解いただける成果を挙げた。							
【中期計画記載事項】								
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。								
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (九州国立博物館) 年2～3回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

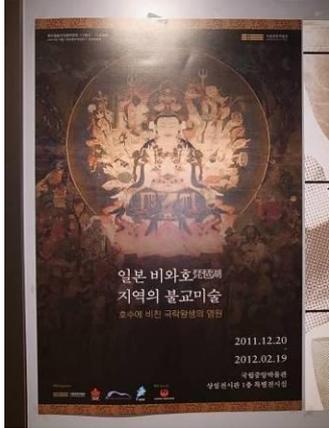
中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (3/4)									
【年度計画】										
ウ 「大契丹展」(9月27日～11月27日) 中国・契丹の文化と美術を中国内蒙古自治区出土文物を通じて紹介。(目標来館者数 6万人)										
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長 小泉恵英							
【実績・成果】										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会名 「草原の王朝 契丹ー美しき3人のプリンセス」</li> <li>・会 期 平成23年9月27日(火)～11月27日(日)(54日間)</li> <li>・会 場 九州国立博物館 特別展示室</li> <li>・主 催 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、RKB毎日放送、内蒙古博物院</li> <li>・陳列品総件数 125件(中国・一級文物45件)</li> <li>・来館者数 75,880人(目標来館者数 60,000人)</li> <li>・入場料金 一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円</li> <li>・アンケート結果 満足度 90%</li> </ul>										
【補足事項】										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・唐滅亡後、中原の広い範囲を支配した王朝・契丹に焦点を当て、その豊かな芸術や文化、思想を示す様々な文物を総合的に展示した。展示構成は、第1章「馬上の芸術」、第2章「大唐の遺風」、第3章「草原都市」、第4章「蒼天の仏国土」の4部から成る。</li> <li>・世界初公開50件、日本初公開95件を含む計125件を展示した。6年におよぶ準備期間を経て開催された本展は、契丹をテーマとする展覧会としては、質量ともにかつてないレベルのものであり、研究史的にも極めて意義深い。</li> <li>・講演会として、契丹大学と称する連続講座(4日間、全7回)を開催した。当館研究員5名に加え、平等院住職神居文彰氏、東京藝術大学原田一敏氏にご講演いただいた。出席回数に応じて記念品を贈呈するという新しい試みを行い、通常に比べ、多くの方にご参加いただいた。</li> <li>・教育普及活動として、馴染みのない契丹という王朝をより身近に感じてもらうため、展示作品とも関わりの深い3人の女性が語るというコンセプトで、解説パネル等を作成し、展示室内に掲出。そのほか、プリンセス着せ替えコーナーや顔出しパネルを設置し、好評を博した。</li> <li>・より多くの方に関心を持ってもらえるよう、展覧会担当者が展覧会の内容について語る映像をYouTubeで配信した。数多くのアクセスがあり、今後の広報を考えるうえで画期となる試みだった。</li> <li>・文化交流展示室に設置されている多宝千仏石幢石塔(重文)を3D撮影したデータをもとに、100分の1サイズのフィギュアを限定100個で販売。新聞等のメディアにも取り上げられ、注目を集めた。</li> </ul>									<p>彩色木棺 展示風景</p>	
									<p>プリンセス着せ替えコーナー</p>	
【定量的評価】										
項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22		
来館者数	75,880人	60,000人	A		—	—	—	—		
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)									
【中期計画記載事項】										
<p>特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。</p> <p>特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>年2～3回程度</p>										
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調						

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 2124-4

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ② 特別展 (4/4)							
【年度計画】								
エ 「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」(平成24年1月1日～3月4日) 熊本・細川家に伝来、収蔵される文化財の中から代表的な優品を一堂に展覧。(目標来館者数 7万人)								
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長	小泉恵英				
【実績・成果】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会名 「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」</li> <li>・会 期 平成24年1月1日(日)～3月4日(日)(56日間)</li> <li>・会 場 九州国立博物館 特別展示室</li> <li>・主 催 九州国立博物館・福岡県、財団法人永青文庫、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州、西日本新聞社</li> <li>・陳列品総件数 232件(国宝8件、重要文化財25件、重要美術品18件)</li> <li>・来館者数 113,290人(目標来館者数 70,000人)</li> <li>・入場料金 一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円</li> <li>・アンケート結果 満足度 83%</li> </ul>								
【補足事項】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示構成：永青文庫に所蔵される細川家ゆかりの美術品や歴史資料を中心に、232件の武具、絵画、書跡、能道具、東洋考古などの優品を展示した。展示構成は、第Ⅰ部が「武家の伝統－細川家の歴史と美術－」と題し、第1章「戦国武将から大名へ」第2章「藩主細川家」第3章「武家の嗜み」の3章からなり、第Ⅱ部「美へのまなざし－護立コレクションを中心に－」では、第1章「コレクションの原点」第2章「芸術の庇護者」第3章「東洋美術との出会い」の3章構成とした。</li> <li>・展示の特徴：膨大かつ多岐にわたる永青文庫コレクションの全体像を、九州では初めての規模で紹介することが出来た。また、展示作品のうち合計9件は九州会場のみ出陳であり、細川家における大名文化について一層の理解を促した。</li> <li>・展示の工夫：第Ⅰ部第1章と第2章の間に、初代熊本藩主となった忠利所用の幟と大馬印を傾斜台で展示し、細川家が九州の大名となったことを鑑賞者に印象づけられるよう工夫した。また、代々細川家に伝えられた文化財を展示した第Ⅰ部と、第16代当主・護立の蒐集品からなる第Ⅱ部の間に回廊を設け、コレクション成立の経緯を鑑賞者に伝える工夫を凝らした。</li> <li>・教育普及：歴史資料や細川家ゆかりの人物などを分かりやすく解説した「解説パネル」を制作し、展示室内に掲示した。また、こども向けの教育普及としては、永青文庫の成り立ちや所蔵品を体験的に理解してもらうために、双六を作成し、「剣豪・宮本武蔵になろう！」ワークショップを実施した。一般向けには、18代当主・細川護熙氏による記念講演、能楽イベント、竹内順一永青文庫館長の講演会、担当研究員による講演会を開催した。</li> </ul>								
								
				忠利所用の幟と大馬印の展示				
								
				歴史資料を分かりやすく解説したパネル				
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	113,290人	70,000人	S	—	—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。								
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (九州国立博物館) 年2～3回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 展覧事業の充実 ③ 海外展							
【年度計画】 1) 韓国において文化庁との共催により海外展を開催する予定。								
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長 小泉恵英					
【実績・成果】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会名 文化庁海外展「日本 仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」</li> <li>・会 期 平成23年12月20日(火)～24年2月19日(日)(51日間)</li> <li>・会 場 韓国国立中央博物館</li> <li>・主 催 九州国立博物館・福岡県、文化庁、滋賀県、韓国国立中央博物館</li> <li>・陳列品総件数 59件(国宝4件、重要文化財31件)</li> <li>・来館者数 52,316人</li> <li>・入場料金 無料</li> </ul>								
【補足事項】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の美術を諸外国に紹介するため、毎年、文化庁が海外で行う日本古美術展として、韓国・国立中央博物館において行われた。本展は、九州国立博物館が平成22年度に行ったトピック展「湖の国の名宝展」を基に展示を再構成したもので、展示は、第1章「観音菩薩の聖地」、第2章「浄土に向かう心」、第3章「密教の世界」の三部から成る。</li> <li>・本展は、滋賀県下の文化財保護の拠点として50年を超える活動を行ってきた滋賀県立琵琶湖文化館に所蔵・寄託されている滋賀県ゆかりの仏教美術の優品を一堂に集めた展覧会で、全作品について、韓国への出品は初めてとなった。6世紀以来、仏教を通じて交流を深めてきた日韓両国にとって、極めて有意義な展覧会といえる。</li> <li>・井上ひろ美氏(琵琶湖文化館)、根立研介氏(京都大学)等、日本の研究者が招へいされ、国立中央博物館において講演会を行った。</li> </ul>								
								
					開会式の様子 (文化庁長官のあいさつ)			
								
					展覧会ポスター			
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
来館者数	52,316人	—	—		—	—	—	—
総合評価	㊟ A B C F(S、Fの理由) わが国有数のレベルを誇る滋賀県の仏教美術を韓国に紹介することで、日本と韓国の仏教の交流について再認識する機会を提供できた。また、5万人を超える観覧者を迎えることができたことで、多くの人々の関心を深めた。							
【中期計画記載事項】								
海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 2211-1

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(1/2)							
<b>【年度計画】</b> (4館共通) 1) キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。 (東京国立博物館) 1) 日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館20室を教育普及スペース「みどりのライオン」と位置づけ、適宜、小講堂等も活用し、内容に応じた環境を設定しながら事業を展開する。 ○ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施 ・特集陳列「親と子のギャラリー 博物館できもだめし」(7月20日～8月28日) ○体験型プログラムの実施 ・特集陳列「親と子のギャラリー 博物館できもだめし」など、総合文化展(平常展)に関連した一般向け及びファミリー向けのワークショップやアクティビティを実施する。 ・本館20室「みどりのライオン」において、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」を継続して実施する。 ・正月企画「博物館に初もうで」に関連して、ワークシートを用いたアクティビティを実施する。 ○教育的展示及びイベント「博物館でお花見を」(3月23日～4月17日)の実施 2) 学校との連携事業を推進する。 ・スクールプログラム(鑑賞支援・体験型プログラム等)を継続して実施する(小・中・高校生対象)。 ・就業体験の受け入れを継続して行う(小・中・高校生対象)。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修を継続して実施する。 ・教員鑑賞会・ガイダンスを継続して実施する。 3) (略)								
担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	総務課長 樋口理央 教育普及室長 伊藤信二					
<b>【実績・成果】</b> (4館共通) 1) 国立博物館と大学等との連携を図り、歴史・伝統文化に対する理解促進に寄与し、博物館が所蔵する文化財を核とした学ぶ場を提供することができた。加入校数37校、団体利用を含み10,157名の学生にご利用いただいた。 (東京国立博物館) 1) 総合文化展鑑賞の手がかりとして、展示や作品に関連した企画実施を通じ、伝統文化の理解促進に寄与し、伝統文化への興味関心をより高めることができた。震災の影響による23年3月12日～3月28日の臨時閉館に伴い、「博物館でお花見を」の開催は23年3月29日～4月17日となった。会期中「花見で一句」には161の投句があり、12名が入選。また、23年4月2日に予定されていた桜セミナーを中止した。 2) 児童生徒に対し目的、学年、人数などに応じたプログラムを提供することで、充実した鑑賞体験の提供に寄与した。また、伝統文化への興味関心を高め、理解を促した。教員にも、展示のみならず博物館への理解を深め、利用について検討するきっかけとなる研修を提供した。特別展の鑑賞手引きとしてジュニアガイドの制作、配布も行った。								
<b>【補足事項】</b> 1) ・本館20室でのアクティビティ、ワークショップ ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」4月5日～4月30日、6月14日～24年3月31日 合計88,221人 ハンズオン体験コーナー「写楽に挑戦！」(特別展「写楽」関連)5月1日～6月12日 24,279人 ハンズオン体験コーナー「東博龍めぐり&掛軸ふうカレンダー」24年1月2日・3日 4,715人 特別展「手塚治虫のブッダ展」関連ワークショップ 6月18日 1回11人 ・本館20室以外でのアクティビティ 総合文化展関連ワークショップ 16回287人、 ・表慶館でのアクティビティ「表慶館トラベル」 ハンズオン体験コーナー「アジアの香り」1,147人、ツアー「まぼろしの作品調査書」526人 2) ・スクールプログラムではガイダンス、鑑賞支援プログラム、体験型プログラムなど11のコースを設け、152校7,710人に対して実施した。また、大学生、専門学校生および教育関連機関の見学対応を10校286人に行った。就業体験として、24校104人を受入れた。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修(共催：東京藝術大学)は7月27日～29日の3日間で開催し、38名が参加した。教員鑑賞会・ガイダンスは5回実施し、計897人が参加した。 ※震災の影響により、スクールプログラムによる利用は20校370人がキャンセルとなった。また、予定していた特別展「写楽」の教員鑑賞会・ガイダンスを急遽中止とした。								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
キャンパスメンバーズ加入校数	37校	—	—		22	29	35	35
総合評価	S (A) B C F(S、Fの理由)							
<b>【中期計画記載事項】</b> 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(2/2)								
【年度計画】 (4館共通) 1) (略) (東京国立博物館) 1) 2) (略) 3) 文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・記念講演会・連続講座・教育普及イベント等を継続して実施する。 (講演会等の目標) 参加者数 計7,830人(実施回数 計77回程度) ・講演会 参加者数3,500人(実施回数20回程度) ・列品解説等 参加者数4,000人(実施回数55回程度) ・連続講座 参加者数 250人(実施回数 1回程度) ・公開講座 参加者数 80人(実施回数 1回程度)									
担当部課	博物館教育課	事業責任者	教育講座室長 丸山士郎						
【実績・成果】 (東京国立博物館) 3) 文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・記念講演会・連続講座を継続して実施した。 参加者数 計12,664人(実施回数 計112回) ・講演会 参加者数8,224人(実施回数32回) うち月例講演会2,457人(13回)、記念講演会4,669人(15回)、テーマ別講演会775人(3回)、その他講演会323人(1回) ・列品解説等 参加者数3,963人(実施回数76回) ・連続講座 参加者数 380人(実施回数1回) ・公開講座 参加者数 97人(実施回数3回)									
【補足事項】									
 <p>24年1月の月例講演会 「博物館を楽しむ トーハクへようこそ」 講師：銭谷眞美館長</p>									
【定量的評価】項目			23年度実績	目標値	評価	19	20	21	22
うち	講演会等の参加者数	12,664人	7,830人	S	経年変化	11,361	12,332	12,546	13,319
	実施回数	112回	77回	S		142	132	153	126
	講演会参加者数	8,224人	3,500人	S		4,770	7,134	5,600	9,290
	実施回数	32回	20回	S		24	29	24	39
	列品解説等参加者数	3,963人	4,000人	B		3,934	4,774	6,550	3,659
	実施回数	76回	55回	A		101	101	126	83
	連続講座参加者数	380人	250人	S		288	356	320	278
	実施回数	1回	1回	A		1	1	1	1
公開講座参加者数	97人	80人	A	2,369	68	76	92		
実施回数	3回	1回	S	16	1	2	3		
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号 2212

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供							
<p><b>【年度計画】</b> (4館共通) 1) キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。 (京都国立博物館) 1) 展示・収蔵品に関連する講演会「土曜講座」を開催する。 2) 一般向け教育普及事業として「夏期講座」を開催する。 3) 京都市内4美術館・博物館連携の「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」を行う。 4) 小中学生向けに展示解説を行う「少年少女博物館くらぶ」を実施する。 5) 展示品解説シートとしての博物館ディクショナリーを作成し、館内で配布する。併せてメールマガジンでの配信を行う。 (講演会等の目標)参加者数 計2,638人(実施回数 計15回程度) ・土曜講座 参加者数1,848人(実施回数11回程度) ・夏期講座 参加者数 600人(実施回数3回程度) ・「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」 参加者数 190人(実施回数1回程度)</p>								
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 久保智康					
<p><b>【実績・成果】</b> (4館共通) 1) キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携(30校)した。 (京都国立博物館) 1) 展示・収蔵品に関連する講演会「土曜講座」を開催した。(13回・1,199人) 2) 一般向け教育普及事業として「夏期講座(文学と美術Ⅱ)」を開催した。(7/27-29)(1回3日・193人、のべ579人) 3) 京都市内4美術館・博物館連携の「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」を土曜講座と合同で開催した(1回・158人) 4) 小中学生向けに展示解説を行う「少年少女博物館くらぶ」を実施した。(8/2・42人, 8/5・33人) 5) 展示品解説シートとしての博物館ディクショナリーを作成し、館内で配布し、併せてメールマガジンでの配信を行った。 ・「留学生の日」(11/5)を実施した。・「社会科教員のための向上講座」を実施した。(10/25・58人)</p>								
<p><b>【補足事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜講座・夏期講座については、従来平常展示館講堂にて開催してきたところ、展示館建替工事のため、講堂も閉鎖され事業の継続が危ぶまれたが、学習機会の継続的な提供をつづけるため、外部の施設を借りて実施した。</li> <li>・土曜講座は24年3月末現在で1,721回を数える当館の伝統的な普及活動で、参加者からも高い評価を得ている。</li> <li>・夏期講座も例年東京などから泊まりがけで参加される聴講者も多数おり、見学会も合わせ好評を博している。</li> <li>・「少年少女博物館くらぶ」については、平常展において展示解説を行っていたが、平常展休止に伴い、本年は、特別展示館において「百獣の楽園」展をめぐり小中学生向けの解説を行った。</li> <li>・外国人留学生の「留学生の日」来館者は、同伴者を含め107名。「細川家の至宝」展の観覧により文化財への理解を深める機会を提供し、留学生を通じて、日本の伝統文化への理解増進を行った。</li> <li>・「社会科教員のための向上講座」については、京都市内の小中学校で社会科を担当する教員を対象として、講義と特別展のギャラリートークを行った。</li> </ul>								
		 <p>夏期講座 見学会風景</p>						
		 <p>少年少女博物館くらぶ</p>						
<b>【定量的評価】</b> 項目	23年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
キャンパスメンバーズ加入校数	30校	—	—	経年変化	21	29	30	29
講演会等の参加者数	1,450人	2,638人	C		4,489	3,413	3,002	2,313
実施回数	15回	15回	A		46	37	21	17
うち土曜講座 参加者数	1,199人	1,848人	C		4,329	3,254	2,791	2,076
実施回数	13回	11回	A		45	36	19	15
うち夏期講座 参加者数	193人	200人(のべ600人)	B		160	159	179	205
実施回数	1回	1回(3日)	A		1	1	1	1
うち社会科教員のための向上講座	58人	—	—		—	—	32	32
実施回数	1回	—	—		—	—	1	1
「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」(土曜講座の内数)参加者数	158人	190人	B		—	—	—	—
実施回数	1回	1回	A	—	—	—	—	
総合評価	S <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">A</span> B C F(S、Fの理由)							
<b>【中期計画記載事項】</b>								
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(1/2)								
<p>【年度計画】</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。 (奈良国立博物館)</p> <p>1) 小中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良県内小中学校にメールマガジンを配信し、博物館だよりを送付する。</li> <li>・奈良市内小学校5年生を中心に幼稚園児から中学3年生までを対象に世界遺産学習授業を実施する。</li> <li>・中学生の職場体験学習を受け入れる。</li> </ul> <p>2) (略)</p> <p>3) 奈良市教育委員会と連携して教員の研修を行う。</p>									
担当部課	学芸部教育室	事業責任者	室長 吉澤 悟						
<p>【実績・成果】</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) キャンパスメンバーズへの入会及び更新を積極的に進めてきた結果、本年度までで入会校数は28校を維持し、大学との連携を継続した。 (奈良国立博物館)</p> <p>1) 小中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良県内の小中学校222校に対してメールマガジンの配信を行っている。博物館だよりの送付に関しては、奈良市内の全小中学校への郵送配布を行っている。ただし、県内全体では当初契約の印刷部数が追いつかないため、発送先を厳選し対応している。</li> <li>・世界遺産学習事業は、奈良市内小学校5年生34校、合計2,182名に対して実施した。</li> <li>・中学生の職場体験受入を2校6人行った。</li> </ul> <p>3) 奈良市教育委員会と連携した教員への研修を8月26日に行い、150人の参加者を得た。</p>									
【補足事項】									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	19	20	21	22
キャンパスメンバーズ加入校数		28校	—	—		20	25	27	28
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
<p>【中期計画記載事項】</p> <p>学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号 2213-2

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(2/2)							
<b>【年度計画】</b> (4館共通) 1) (略) (奈良国立博物館) 1), 3) (略) 2) 講座等の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・仏教美術等に関するサンデートークを定期的を実施する。</li> <li>・特別展等に際してシンポジウム及び公開講座を開催する。</li> <li>・正倉院展に因むシンポジウムを開催する。</li> <li>・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。</li> <li>・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。</li> <li>・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての啓蒙に努める。</li> </ul> (講演会等の目標) 参加者数 計2,450人(実施回数 計25回程度) <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別展等講座 参加者数1,500人(実施回数12回程度)</li> <li>・夏季講座 参加者数 350人(実施回数 1回程度)</li> <li>・サンデートーク 参加者数 600人(実施回数12回程度)</li> </ul>								
担当部課	学芸部教育室	事業責任者	室長 吉澤 悟					
<b>【実績・成果】</b> (奈良国立博物館) 2) 講座等の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・サンデートークは毎月第3日曜日に実施しており、実績は12回、合計645人の参加があり、アンケート結果では90%の満足度が得られた。</li> <li>・公開講座は、3つの特別展および3つの特別陳列の会期中に実施した。公開講座の実施回数は、合計14回、1,660人の参加があり、平均満足度は87%を得た。その他、特別展「天竺へ〜三蔵法師3万キロの旅」に関連して「玄奘フォーラム」を1回実施した。</li> <li>・正倉院展に関連したシンポジウムは「正倉院学術シンポジウム2011 正倉院宝物のはじまりと国家珍宝帳」と題して10月30日に実施し、4人のパネラーに基調講演をいただき討論を行った。179人の参加を得、満足度は81%であった。</li> <li>・夏季講座は、今年は第40回目を迎え、年々参加者数が増えていることに鑑み、前年の奈良女子大の講堂が手狭であったため、会場を大人数収容できる奈良県文化会館に移して500名を超える参加希望者にも対応できるよう計らった。「玄奘三蔵とシルクロード」と題し、8月24日～26日の3日間に実施、講師は計9人、毎日522人の参加者が集まった。</li> <li>・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」では、春日大社の協力のもと、「春日大社特別ツアー」を実施し、33人の参加者を得た。特別陳列「お水取り」では、東大寺の協力のもと、「お水取り「講話」と「粥」の会」を実施し、38人の参加者を得た。</li> <li>・文化財保存修理所の一般公開は、平成24年2月15日に3回実施し、110名の参加者を得た。</li> </ul> ○講演会等の実績 総計28回・参加者3,006人 (特別展等講座15回・参加者1,839人、夏季講座1回(3日間)・参加者522人、サンデートーク12回、参加者645人)								
<b>【補足事項】</b>								
								
夏季講座「玄奘三蔵とシルクロード」								
<b>【定量的評価】</b> 項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
講演会等の参加者数	3,006人	2,450人	A		2,949	3,655	3,421	3,349
実施回数	28回	25回	A		28	32	33	28
うち特別展等講座参加者数	1,839人	1,500人	A		1,943	2,706	2,043	2,172
実施回数	15回	12回	A		15	19	16	15
うち夏季講座 参加者数	522人	350人	A		358	362	391	556
実施回数	1回	1回	A		1	1	1	1
うちサンデートーク参加者数	645人	600人	A		648	587	584	621
実施回数	12回	12回	A	12	12	11	12	
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
<b>【中期計画記載事項】</b> 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(1/3)								
<p>【年度計画】 (4館共通) 1) (略) (九州国立博物館) 1) 博物館における体験型事業の充実を図る。 ・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットの開発 ・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供 ・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発 2) ～(略)</p>									
担当部課	交流課	事業責任者	主任研究員 池内一誠						
<p>【実績・成果】 (九州国立博物館) 1) ・体験型展示室「あじっば」の運営を進め、従来からのプログラム、キットを継続して展開したほか、今年度新たに「なりきり考古学者 拓本ヴァージョン」「中国の剪纸」等の各プログラム、キットを開発し、来館者向けに展開した。 ・「いこうよ! あじっば夏祭り」やボランティアワークショップを実施し、幅広い層の来館者に体験の場を提供した。 ・アジア各国の文化の類似性や相違性についての理解を深めるため、さまざまなテーマのもと、「あじ庵」「あじぎやら」「ディスプレイ」において特集展示をおこなった。また、季節にあわせて体験資料の展示替えを随時行った。</p>									
<p>【補足事項】 (九州国立博物館) 1) ・今年度開発したプログラム、キットは、上記の他「阿蘇4火砕流と埋もれ木くん」「いろんな国の将棋」「ウズベキスタンの帽子をつくろう」「あじっばカルタ」「ワヤンぬりえ」「天神さまぬりえ」の6種類。そのうち「あじっばカルタ」は、平成22年度ジュニア学芸員活動における成果のひとつを実現したものである。 ・「いこうよ! あじっば夏祭り」「ボランティアワークショップ」は、当館ボランティアが企画から運営まで行っており、ボランティアに対する生涯学習の場としての機能も果たしている。 ・「あじ庵」における特集展示は「タイの町並み」「染めと織り」「いろんな国の子どもの衣装」「アジアの楽器」「桃の節句」「青」の計6回、「あじぎやら」における特集展示は「はらのなかのはらっぱで」「ウズベキスタンの細かな手仕事」「やきもの動物園」「郷土人形」の計4回、「ディスプレイ」における特集展示は「ウズベキスタンの」「ベトナムの水上人形」「モンゴルの生活」「アジアの龍」の計4回、季節等にあわせたあじっば屋台の展示替えは8カ国につき延べ10回。特集展示は、可能な限り特別展やトピック展示等にあわせた内容とした。「タイの町並み」や「モンゴルの生活」はその例である。</p>									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
-		-	-	-		-	-	-	-
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
<p>【中期計画記載事項】 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					



「行こうよ!あじっば夏祭り」



「ウズベキスタンの帽子をつくろう」

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 2214-2

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(2/3)								
<b>【年度計画】</b> (4館共通) 1) キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。 (九州国立博物館) 1) (略) 2) 学校教育との連携事業を実施する。 ・職場体験(中学生)の受け入れを実施 ・ジュニア学芸員(高校生)事業の実施 ・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場の設置 ・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しの実施 3)～8) (略) 9) 放送大学の面接授業を実施する。									
担当部課	総務課 交流課	事業責任者	課長 主任研究員	岩崎英明 池内一誠					
<b>【実績・成果】</b> (4館共通) 1) キャンパスメンバーズ(大学会員制度)による大学との連携を継続して実施した。 (九州国立博物館) 2) ・12校66名の中学生の職場体験を受け入れ、博物館の機能について紹介した。 ・高校生「ジュニア学芸員」は、5校14名の参加を得て計9回の継続プログラムで実施した。 ・高等学校経験10年経過教員4名、および高等学校経験2年経過教員3名に対し、それぞれ2～3日社会貢献研修を実施した。 ・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸出を引き続き行い、85件の貸出を行った。 9) 放送大学の面接授業を実施した。									
<b>【補足事項】</b> (4館共通) 1) 大学との連携を継続させるため、今年度も募集、実施し、各教育機関(大学・短期大学・高校)が新規及び継続で入会した。 加入校内訳(大学16校、短期大学5校、専門学校1校、高等学校6校) ・会員校へ出張講義を実施した。(1校) ・会員校の学園祭に協賛した。(5校) ・会員校へ博物館体験型講義を実施した。(1校) ・特典の利用として文化交流展を4,763人、特別展を1,795人が観覧した。また、パスポートを1,842人(学生1,690人、教職員152人)が割引購入した。 ・会員校である筑紫台高等学校は、キャンパスメンバーズ制度を活用し、授業のカリキュラムに当館の特別展観覧を組み込んでいる。 (九州国立博物館) 2) ・「ジュニア学芸員」は今年度「あじっばにおける考古資料の効果的な展示と紹介の手法」について検討を行った。 ・社会貢献研修を行った教師は、その後「きゅうぱっく」の利用や「ジュニア学芸員」の募集への協力など、博物館に対する理解が深まったといえる。 ・「きゅうぱっく」については今年度から貸出範囲を明確に「全国」とし、それに伴い貸出期間も2週間と延長した。東京、京都など遠方からの貸出依頼が増加したほか、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県南三陸町からの貸出依頼も入り、応えることができた。									
									
									
<b>【定量的評価】項目</b>		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
キャンパスメンバーズ加入校数		28校	—	—		21	22	29	27
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
<b>【中期計画記載事項】</b>									
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信						
事業名	(2) 教育活動の充実 ①学習機会の提供(3/3)						
<b>【年度計画】</b> (4館共通) 1) (略) (九州国立博物館) 1) 2) (略) 3) シンポジウムを開催する。 4) 特別展記念講演会を開催する。 5) 文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施する。 6) ギャラリートークを随時実施する。 7) 文化施設等へ講師を派遣する。 8) 特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行う。 9) (略) (講演会等の目標)参加者数 計2,030人(実施回数計46回程度) <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別展記念講演会 参加者数 600人(実施回数 4回程度)</li> <li>・特別展シンポジウム 参加者数 180人(実施回数 1回程度)</li> <li>・ミュージアムトーク 参加者数1,200人(実施回数40回程度)</li> <li>・ミュージアム講座 参加者数 50人(実施回数 1回程度)</li> </ul>							
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長 小泉恵英				
<b>【実績・成果】</b> (九州国立博物館) 3) 朝鮮半島の古代国家である百済と日本について考える国際シンポジウム「百済文化と古代日本」を開催した。 4) 今年度は特別展記念講演会を7回開催した。 5) 特別展では展示内容を分かりやすく普及啓蒙するパネルを掲出し、来館者から高評価を得ている。 6) 定例のギャラリートークを43回開催し、展示だけでは伝わらない博物館活動の内容を紹介し、好評を博している。 7) 放送大学において展覧会の運営にかかる連続講座を実施、アクロス福岡にてトピック展に関連した講座を実施した。 8) 特別展・文化交流展についてのワークショップを開催し、来館者との交流を室外でも深めることができた。							
<b>【補足事項】</b> (九州国立博物館) 8) トピック展示「日本とタイ-ふたつの国の巧と美」では、久留米緋体験やタイ舞踊公演など、日タイ友好を目的としたテーマに相応しいワークショップを展開することができた。							
							
トピック展示開会式を彩ったタイ舞踊							
<b>【定量的評価】</b> 項目	23年度実績	目標値	評価	19	20	21	22
講演会等の参加者数	7,833人	2,030人	S	4,168	5,507	6,806	3,996
実施回数	89回	46回	S	61	56	73	64
うち特別展記念講演会	参加者数 1,500人	600人	S	1,892	2,670	1,622	1,410
	実施回数 7回	4回	S	7	11	6	9
うち特別展シンポジウム	参加者数 263人	180人	A	—	290	530	230
	実施回数 1回	1回	A	—	2	2	2
うち講演及びシンポジウム	参加者数 4,269人	—	—	316	1,265	3,319	1,036
	実施回数 37回	—	—	1	4	22	9
うちミュージアムトーク	参加者数 1,741人	1,200人	A	1,320	1,096	1,285	1,320
	実施回数 43回	40回	A	42	37	42	44
うちミュージアム講座	参加者数 60人	50人	A	640	186	50	—
	実施回数 1回	1回	A	11	2	1	—
総合評価	S <b>Ⓐ</b> B C F (S、Fの理由)						
<b>【中期計画記載事項】</b>							
学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。							
中期計画に対して順調に成果を上げているか。		順調					

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 2221-1

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-1 ボランティア活動の支援							
【年度計画】 (東京国立博物館) 1) 各種教育事業及びイベント等の補助活動、館内案内等の充実を図る。 2) 点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内を実施する。 3) 各種ガイドツアーを継続して実施する。 4) ボランティア自身の企画立案によるプログラムの充実を図る。 5) 東京藝術大学学生ボランティアによる活動を継続して実施する。								
担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長 鈴木みどり					
【実績・成果】 (東京国立博物館) 1) 館内各所での案内・みどりのライオン体験コーナー・紹介コーナーでの活動、職場体験の補助のほか、イベント班とワークショップ班による、年間を通じた各種イベント・ワークショップの補助活動を実施。また、期間限定の「表慶館トラベル」の補助活動を実施。各活動実施のための研修会・解説会を実施した。 2) 通年で触知図やコミュニケーションボード等を用いたバリアフリー活動を実施。バリアフリー対応班により、盲学校を含む視覚障害者対応、点字パンフレットの印刷、自主企画グループにより手話通訳付きのガイドを実施した。またボランティア全員を対象に、視覚障害者理解、聴覚障害者理解のための研修を実施した。 3) 全13の自主企画グループによるガイドツアー等の活動を実施。また、研究員により、活動のための研修会を実施。 4) 通常の自主企画グループの活動のほかに留学生の日・ボランティアデー・博物館でお花見をなどでの活躍の場を設け、より自主性を持った活動を行えるよう支援した。また、ボランティアデーではボランティア活動 PR 隊を募集し、ボランティアの企画立案によるボランティア活動紹介を実施した。 5) 総合文化展の作品解説をするギャラリートーク班5名と、所蔵作品の制作工程模型の作成と教育普及事業を行う制作工程模型班1名による活動を行った。								
【補足事項】 ・教育普及事業の補助活動では、東洋館開館後の教育普及事業の事前調査の一環として10月～12月の土・日・祝に体験型プログラムの「表慶館トラベル」の補助活動を実施。一般を対象とした「アジアの香り」、小学生を対象とした「まぼろしの作品調査書」の実施、ボランティアとの2回の意見交換会を通して、教育普及プログラムの対象や運営方法などの参考にした。 ・バリアフリー活動として、点字パンフレット作成36冊、手話通訳付きガイドツアーとして「たてもの散歩ツアー」(毎月1回)、「本館ハイライトツアー」(全1回)を実施。 ・各自主企画グループおよびボランティア活動PR隊のガイド・ツアー等の実施。(459回11,815人) ・自主企画グループ 樹木ツアー、浮世絵ガイド、本館ハイライトツアー、法隆寺宝物館ガイド、考古展示室ガイド、陶磁ガイド、庭園茶室ツアー、お茶会、彫刻ガイド、英語ガイド、こどもたちのアートスタジオ、たてもの散歩ツアー、たんけんマップツアー ・生涯学習ボランティアに対する研修39回、解説会6回 ・東京藝術大学学生ボランティアによるギャラリートーク30回821人 ・東京藝術大学ボランティア制作工程模型班は平成23・24年度2カ年の活動。23年度は制作のための調査と制作を行い、24年度に展示・教育普及事業を実施予定。								
								
生涯学習ボランティアによる「触知図」を使った館内案内とバリアフリー活動								
【定量的評価】								
項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
ボランティア数	169人	—	—	変 化	162	171	163	159
うち生涯学習ボランティア登録者数	163人	—	—		153	164	155	152
うち東京藝術大学学生ボランティア数	6人	—	—		9	7	8	7
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-1 ボランティア活動の支援								
【年度計画】 (京都国立博物館) 1) 調査・研究支援ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を進める。 2) 大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。 3) 「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。									
担当部課	学芸部	事業責任者	連携協力室長 山下善也						
【実績・成果】 (京都国立博物館) 1) 収藏品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究支援ボランティアを受け入れた。 2) ・京都市内の小中学校への訪問授業等を実施した。(8回) ・大学生・大学院生ボランティア「文化財ソムリエ」を対象としたスクーリングを実施した。(16回) ・京都橘大学との教育提携に基づき、ボランティアによる観覧者アンケート調査を実施した。(12回) 3) 「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用した									
【補足事項】 2) 「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生のボランティアが、当館研究員によるスクーリングを受けたのち、京都市内の小中学校訪問授業において講師をつとめた。									
6月13日	紫明小学校								
7月13日	納所小学校								
10月3日	金閣小学校								
10月31日	新洞小学校								
11月28日	蜂ヶ岡中学校								
11月30日	鷹峯小学校								
12月19日	一橋小学校								
・建仁寺で23年3月から4月にかけて行われた「綴プロジェクト作品展」(NPO 法人京都文化協会主催)にて、キッズプログラム(4月4日)の講師をつとめた。									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
ボランティア数		64人	—	—		23	30	35	40
うち京都橘大学学生によるアンケートボランティア数		18人	—	—		18	24	18	18
うち調査・研究支援ボランティア数		22人	—	—		5	6	10	15
うち文化財ソムリエ数		14人	—	—		—	—	7	7
うちらくご博物館学生ボランティア数		10人	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F(S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					



文化財ソムリエによる訪問授業

【書式A】

施設名 奈良国立博物館処理番号 2223-1

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-1 ボランティア活動の支援								
【年度計画】 (奈良国立博物館) 1) ボランティア制度をより充実させるため、その在り方について検討する。 2) ボランティアによる、展示解説、イベント、学習普及事業補助等の充実を図る。 3) ボランティア同士のグループ別学習の充実に努める。 4) 外国語対応のできる解説ボランティアの充実に努める。									
担当部課	学芸部教育室	事業責任者	室長 吉澤 悟						
【実績・成果】 (奈良国立博物館) 1) ボランティア制度を見直すため、検討委員会を立ち上げ、月1～2回の検討会を開催した。その結果、23年度の後半に「ボランティア室」を設置し、新制度でのボランティアを公募することとした。11月より新ボランティアの公募を始め、年明けに準備室を設置、採用者の決定、研修等を行い、24年度より活動開始を目指すこととした。 2) ボランティアに対して、特別展、特別陳列の開催ごとに1～2回、当館職員、展覧会担当者による展示内容の研修を実施した。また、全員にすべての展覧会図録を配布し、解説と自己鍛錬のための学習資料とした。さらに、正倉院展の会期中に、ボランティアによる講堂解説を実施した。この事業に関しては、教育室がスライド資料と原稿を作成し、立会研修を行った後、1～2週間にわたる自主トレーニングを課して実地に臨むよう指導した。 日常的には、学芸部職員による担任制をとり、展示内容に関する質問や問題解決に対応した。 3) ボランティアの学習に関しては、班体制の中で互いに情報共有をはかり、解説における役割分担などの工夫をはかるよう指導した。 4) 外国語対応のボランティアの充実は、新体制において採用を奨励することとして、年度内は現有のスタッフで対応することとした。									
【補足事項】 ・ 休館日や年末年始の臨時開館日に対しても柔軟に活動できるよう、担当班を割り振り、活動参加を呼びかけた。 ・ 昨年度にボランティアの退任者や物故者があり活動人数が減少したため、過去に当館でボランティア活動の経験がある者の再登録を奨励し、5名の経験者を採用し体制の強化を図った。									
									
ボランティア活動風景									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
ボランティア数		87人	—	—	経年変化	96	102	98	85
うち解説ボランティア数		79人	—	—		85	91	87	76
うちイベントボランティア数		8人	—	—		11	11	11	9
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-1 ボランティア活動の支援							
【年度計画】 (九州国立博物館) 1) ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会(日本語、英語、中国語、韓国語)、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生部会の充実を図る。 2) ボランティアに対し資質向上を目的に基礎研修・専門研修を実施する。 3) ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。								
担当部課	交流課	事業責任者	主任研究員 上野知彦					
【実績・成果】 (九州国立博物館) 1) 新規(第3期)ボランティアを受け入れ、各部会の所属人数増だけでなく、新たな発想・思いによって、従来の活動の発展・充実、そして新しい活動の創造等が行われた。 2) 「九州国立博物館ボランティア活動」の継続・発展を目的に第2期ボランティアの企画・実施による第3期ボランティアへの研修を積極的に実施した。 3) イベントやワークショップ等の実施において、主体性・自主性を尊重した取り組みを行った。								
【補足事項】 1) ・開館以来活動していた第1期ボランティアの任期(活動期間)の終了に伴い、新規(第3期)ボランティアを受け入れた。また、第2期ボランティアとの融合がスムーズに実施できた。 ・各期のボランティア数 第2期ボランティア(平成20年4月より活動)数 132名 第3期ボランティア(平成23年4月より活動)数 223名 ・通常の活動においては、毎日30~40人、月のべ1,000人前後のボランティアが活動。活動率は月2回以上の活動者がボランティア登録者のおおよそ7割。 ・日常の活動は博物館1階における館内案内(日本語・英語・中国語・韓国語・手話)、体験型展示室“あじっば”における活動サポート、4階文化交流展示室の解説案内、博物館内のI P M活動 〔ボランティア対応来館者数〕(事前・当日受付を含む総数) 展示解説：11,316名 案内館内：6,738名 バックヤードツアー：3,082名 2) ・他館・他施設のボランティア活動や運営等を学ぶため、またボランティアの資質向上を目的に積極的に館外研修(他館交流)を実施することができた。 〔主な館外研修先〕 宗像大社宝物館、北九州市立いのちのたび博物館、田川市立石炭歴史博物館、佐賀県立名護屋城博物館、長崎歴史文化博物館、長崎県美術館、出島和蘭商館跡 〔主な研修〕 日韓交流史、古文書講座、I P M関連講座 3) ・ボランティア自身に企画から実施まで担わせることで、ボランティアの主体性・自主性を高めることができた。 〔実施したイベント・ワークショップ〕 九博子どもフェスタ(10数種類のプログラムを展開) 各ワークショップ：和綴じ本作成・組紐・餅つき・書き初め等 ・部会の枠を越えたグループ活動が積極的になり、定期的に研修や勉強会を行い、その成果報告としてのワークショップなどを開催した。								
 <p>英語による館内案内</p>								
 <p>長崎県美術館との交流会</p>								
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	19	20	21	22
ボランティア数		355人	—	—	293	388	345	288
うち展示解説ボランティア数		84人	—	—	54	85	68	63
うち教育普及ボランティア数		48人	—	—	72	70	62	53
うち館内案内ボランティア数		31人	—	—	34	37	34	32
うち外国語通訳ボランティア数		89人	—	—	48	77	71	53
うち環境ボランティア数		38人	—	—	28	36	32	28
うちイベントボランティア数		10人	—	—	14	13	11	10
うち資料整理ボランティア数		20人	—	—	—	19	19	18
うちサポートボランティア数		25人	—	—	—	30	29	19
うち学生ボランティア数		10人	—	—	43	21	19	12
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 東京国立博物館処理番号 2221-2

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-2 博物館支援者の増加							
【年度計画】 (4館共通) 企業との連携及び「友の会」活動の活性化を図る。 1) 「友の会」等の会員制度によるリピーターの拡大に努める。 2) 「友の会」会員を対象とした事業を実施する。 3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 4) 公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。 5) 展覧会事業への企業からの各種支援(協賛・協力)を募る。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 賛助会員制度の継続・拡充を図る。 2) 地域、企業との連携・拡充を図る。								
担当部課	総務部総務課	事業責任者	総務課長 樋口理央					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 入会時のプレゼント、イベント料金の割引を実施した。 2) 「東大寺講演会」を開催した。 3) 地域との連携、PRにより認知度向上に努めた。 4) JR、地下鉄など総合文化展、特別展のポスターの掲示に協力を図るなど、広告活動に努めた。 5) 三菱商事株式会社と共催で「障がい者内覧会」を実施した。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 積極的に企業へのPRを行い、新規会員を増加させた。 2) 日本大学共催で「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催した。								
【補足事項】 (4館共通) 1) 継続案内を積極的に行い、リピーターの拡大に努めた。 2) キャンセル待ちを含め301名が参加した。 3) 特別展におけるマスコミ各社との共催の他、上野のれん会、上野法人会、上野の山文化ゾーン協議会等に参加し、共同事業の実施や、PR活動への協力を得るなどして、博物館活動の認知度向上に努めた。 5) その他、株式会社東京美術等から様々なイベントへの協力を得た。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 2) 日本大学芸術学部との共催で所沢市教育委員会等の後援により「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催した。  ・個人の維持会員についても賛助会顕彰板の前にパンフを設置するなど、個別に制度の紹介をするなどした結果、加入者が増加した。(191人→238人) ・企業などへ個別訪問することにより、賛助会参加の企業が増加した。(44団体→54団体)								
【定量的評価】項目								
	23年度実績	目標値	評価	経年 変化	19	20	21	22
友の会会員数	1,802人	—	—		1,341	1,913	2,085	1,412
パスポート会員数	17,672人	—	—		16,035	20,405	21,598	13,733
賛助会員	292件	—	—		163	196	218	235
うち特別会員数	19団体	—	—		16	13	16	16
うち維持会員数(団体) (個人)	35団体 238人	— —	— —		24 123	26 157	24 178	28 191
総合評価	S <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">A</span> B C F(S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				



柳瀬荘

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-2 博物館支援者の増加							
【年度計画】								
(4館共通)								
企業との連携及び「友の会」活動の活性化を図る。								
1) 「友の会」等の会員制度によるリピーターの拡大に努める。								
2) 「友の会」会員を対象とした事業を実施する。								
3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。								
4) 公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。								
5) 展覧会事業への企業からの各種支援(協賛・協力)を募る。								
(京都国立博物館・奈良国立博物館)								
1) 支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。								
担当部課	総務課	事業責任者	課長	植田義雄				
	学芸部		連携協力室	山下善也				
【実績・成果】								
(4館共通)								
1) 「友の会」事業を継続し、リピーターの拡大に努めた。								
2) 「友の会」会員を対象とした事業を実施した。								
3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努めた。								
4) 公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努めた。								
5) 昨年度設置した「ミュージアム・パートナー」制度に、今年度新規に1社が加入し、合計2社が加入している。								
(京都国立博物館・奈良国立博物館)								
1) 支援団体(社団法人清風会)が行う鑑賞会(4回)・見学会(5回)・会報(4回)の解説・執筆及び、総会の開催に協力した。また、地域・機関との連携事業に協力した。								
【補足事項】								
(4館共通)								
1) 「友の会」会員が当館ミュージアムショップにおいて、「友の会」会員カードを提示すると、商品(書籍・グッズ等)が10%引きで購入できる等の特典がある。								
3) ・毎週木曜に当館の展覧会やイベント等の情報をラジオ(FMCOLO)にて配信し、当館の認知度向上につながった。								
・庭園を利用した「ジャングル大帝」野外上映会(計2回)を開催し、大盛況であった。また、展覧会チケット半券による入場であったため、展覧会の集客に努めた。								
・人間国宝 桂米朝氏の所属している米朝事務所の制作協力による「京都・らくご博物館」を実施した。平常展示館建替中に伴い、今年度は2回実施した。								
・全館休館期間中に、京阪電気鉄道株式会社の特別協力による音楽イベント「音燈華」を庭園を利用して開催した。武田高明氏の燈火による演出のもと、DEPAPEPE(デパペペ)が音楽を奏で、大盛況であった。								
・展覧会会期中に当館文化大使竹下景子さんと行く観覧ツアーを開催し、大盛況であった。								
(京都国立博物館・奈良国立博物館)								
1) 「京都市内4館連携協力協議会」では、京都国立近代美術館、京都市美術館、京都文化博物館、京都国立博物館の4館が連携し、広報のための合同パンフレットを67,000部製作、連携講座やスタンプラリーを実施するなど事業内容の充実に努めるとともに、「友の会」の相互協力を行った。								
・京都市内博物館施設連絡協議会、第26回国民文化祭京都市実行委員会の行う広報活動やイベント事業への協力を行った。								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
友の会会員数	2,667人	—	—	経 年 変 化	3,224	2,932	2,612	2,468
ミュージアム・パートナー会員数	2件	—	—		—	—	—	1
清風会会員数	373人	—	—		390	388	389	391
うち賛助会員数	34人	—	—		34	34	31	34
うち特別会員数	61人	—	—		67	67	63	61
うち普通会员数	278人	—	—		289	287	295	296
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				



音燈華～DEPAPEPE コンサート～

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号 2223-2

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-2 博物館支援者の増加							
<p><b>【年度計画】</b>                  (4館共通)                  企業との連携及び「友の会」活動の活性化を図る。                  1) 「友の会」等の会員制度によるリピーターの拡大に努める。                  2) 「友の会」会員を対象とした事業を実施する。                  3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。                  4) 公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。                  5) 展覧会事業への企業からの各種支援(協賛・協力)を募る。                  (東京国立博物館・奈良国立博物館)                  1) 賛助会員制度の継続・拡充を図る。                  2) 地域、企業との連携・拡充を図る。                  (京都国立博物館・奈良国立博物館)                  1) 支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。                  (奈良国立博物館)                  1) 支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。                  2) 支援団体等と連携し、展覧会の充実に努める。</p>								
担当部課	総務課渉外室	事業責任者	総括専門職員 吉田貴至					
<p><b>【実績・成果】</b> (4館共通)                  1) 友の会                  会員数 2,615人(一般2,503人、学生88人、家族24人)                  2) 会員に夏季講座の案内を送付し、優先的に受講できる配慮を行った。                  3) 株式会社日本香堂と確約書を取り交わし、展覧会のPRを行った他、体験イベント・講演会を行った。                  4) 西日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、阪神電気鉄道株式会社とタイアップし、特別展の広報を行った。                  5) 他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。                  (東京国立博物館・奈良国立博物館)                  1) 賛助会 29団体 36人                  特別支援会員：5団体、特別会員：5団体、一般会員(個人)：36人、(団体)：19団体                  2) 観光関連業界の会合に出向き、顧客層の開拓を行った。                  奈良の観光イベント「ライトアッププロムナード・なら 2011」、「なら燈花会」、「ならファンタジー」、                  「音燈華 SPECIAL LIVE」、「陶燈茶夜」、「なら瑠璃絵」に対して積極的に協力した。                  (京都国立博物館・奈良国立博物館)                  1) 支援団体等が主催する講演会等に会場を提供した。                  (奈良国立博物館)                  1) 展覧会の解説付の鑑賞会の実施に協力した。                  2) 特別展の実施に際して企業等からの協力金を獲得した。</p>								
<p><b>【補足事項】</b>                  ・賛助会員に対する特別観賞会を実施するなど、あらゆる機会を通じて会員獲得に対する努力を行った。                  ・賛助会員からの要望に応じて、継続入会の場合は会費の納入のみで手続きが終了できるように、継続入会手続きを簡略化した。</p>								
								
			ならファンタジー			音燈華 SPECIAL LIVE		
<b>【定量的評価】</b> 項目	23年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
友の会会員数	2,615人	—	—	経年変化	2,439	2,815	2,799	3,180
賛助会員数	65件	—	—		45	49	56	64
うち特別支援会員数	5団体	—	—		6	6	5	4
うち特別会員数	5団体	—	—		1	1	2	4
うち一般会員数	55件	—	—		38	42	49	56
総合評価	S <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">A</span> B C F (S、Fの理由)							
<p><b>【中期計画記載事項】</b>                  教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ②-2 博物館支援者の増加							
【年度計画】 (4館共通) 企業との連携及び「友の会」活動の活性化を図る。 1) 「友の会」等の会員制度によるリピーターの拡大に努める。 2) 「友の会」会員を対象とした事業を実施する。 3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 4) 公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。 5) 展覧会事業への企業からの各種支援(協賛・協力)を募る。 (九州国立博物館) 1) 近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実に努める。								
担当部課	総務課 広報課 交流課	事業責任者	課長 岩崎英明 課長 梶村正年 事務主査 藤崎秀典					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 「友の会」等の会員制度を継続して実施した。 2) 「友の会」会員を対象に、季刊情報誌「アジアージュ」、トピック展ちらし等の送付を行った。 3) 企業等と連携し、広報活動を行った。 4) 特別展においては、公共交通機関等とのタイアップにより広報活動を実施した。 5) 特別展「よみがえる国宝」において企業からの協賛を得た。 (九州国立博物館) 1) 支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施し、広報活動の充実に努めた。								
【補足事項】 (4館共通) 1) 館で製作した九博ストラップ(3色)とチケットフォルダーを入会記念品として充実させた。 4) 特別展においては、JR、西鉄電車とのタイアップにより広報活動を実施した。 (九州国立博物館) 1) 支援団体や近隣地域と連携したイベント ・「九州国立博物館を愛する会」と連携して「九博子どもフェスタ」を開催。館内ボランティアや周辺自治体の協力を得て、地域の子どもたちを対象にしたイベントを実施した。 ・福岡女子短期大学(太宰府市)と連携して館内のカフェで定期的にコンサートを実施。地域連携の促進及び館内施設の有効利用を図った。 ・開館以来、6年連続で国の重要無形文化財である博多祇園山笠の飾り山笠をエントランスホールで展示。この事業は、西日本新聞社との共同事業として実施した。 ・内容を勘案したうえで、自治体が主催するイベントを受け入れ、各団体との連携を強化した。これらの様々なイベント事業の実施により来館者へのサービスが促進された。 ・支援団体である九州国立博物館を愛する会、観光協会に対して特別展の内覧会を行った。 ・太宰府市役所1階窓口を設置されている番号案内表示機に特別展開催情報を表示した。 太宰府市コミュニティバスまほろば号バス停等に設置されているバス情報表示板へイベント等の情報を表示した。								
								
飾り山笠								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
友の会会員数	117人	—	—	変化	167	154	206	144
パスポート会員数	3,093人	—	—		3,252	3,120	3,914	3,318
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 東京国立博物館処理番号 2231

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ③大学との連携							
【年度計画】 (東京国立博物館) 1) インターンシップを継続して実施する(大学院生対象)。 2) 東京藝術大学との連携事業を継続して実施する(大学院生対象)。								
担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長 伊藤信二 ボランティア室長 鈴木みどり					
【実績・成果】 (東京国立博物館) 1) 博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起、高い職業意識の育成を目的として大学院生を対象にインターンシップを募集、8大学20名の学生を受け入れた。それぞれ学芸研究部・学芸企画部の8部署で10～30日の活動を行った。 2) 東京藝術大学の学生ボランティアを募集し、ギャラリートーク班5名、制作工程模型班1名が活動した。ギャラリートーク班では大学院生と当館研究員が連携して準備を行ない、総合文化展の解説を行った。制作工程模型班では館蔵の国宝「紅白芙蓉図」の制作工程模型を作成するための調査を行い、次年度の展示・教育普及事業のための準備を行った。								
【補足事項】 1) インターンシップ ・インターンシップの募集は近隣60大学への郵送による通知のほか、全国あるいは国外からも応募できるようウェブサイトでも行った。 ・インターンシップ受入部署 学芸企画部 デザイン室、教育普及室、教育講座室、情報資料室、広報室 学芸研究部 平常展調整室、東洋室、保存修復課 2) 東京藝術大学学生ボランティア ・東京藝術大学学生ボランティアによるギャラリートーク 30回 参加人数821人								
								
東京藝術大学学生ボランティアによる ギャラリートークの様子								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
-	-	-	-		-	-	-	-
総合評価	S <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">A</span> B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ③大学との連携							
【年度計画】 (京都国立博物館) 1) 京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	上席研究員 赤尾栄慶 連携協力室 山下善也					
【実績・成果】 (京都国立博物館) 1) 京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座では、研究員5名が客員教授(3名)、准教授(2名)を担当し、博士前期・後期課程の学生に対して、実作品の展示・調査活動を通じた専門的な教育を行った。また、京都橘大学との学術協定に基づき、研究員7名が事前講習を行ったのち、学生18名がアンケートボランティアとして活動した。								
【補足事項】 ・文化財保存修理分野の啓発と普及を目的に、文化財保存修理に関わる大学院生を対象とした研修会を実施し、16名の参加があり当館の活動に対する理解を深める機会となった。  ・京都橘大学の学術協定に基づき、特別展会期中の10月18日から11月11日までの毎週火・水・金曜日に学生が来館者にアンケート回答の呼びかけを実施し、終了後に集計を行った。								
								
アンケートボランティア風景								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
—	—	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号 2233

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 教育活動の充実 ③大学との連携								
【年度計画】 (奈良国立博物館) 1) 奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する。 2) 奈良教育大学・奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習のプログラム開発を検討する。 3) インターンシップを継続的に受け入れる。									
担当部課	学芸部教育室	事業責任者	教育室長 吉澤 悟						
【実績・成果】 (奈良国立博物館) 1) ・第40回夏季講座「玄奘三蔵とシルクロード」を奈良女子大学との共同主催として実施した。 ・奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程に学芸部研究員 1 名を客員准教授として派遣し、日本アジア古典資料論の講義を行った。授業の内容は古典資料講読を中心とし、受講生は前期 3 人、後期 4 人であった。 ・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座文化資源論に、学芸部研究員 2 名を客員教授と客員准教授として派遣し、文化資源論の講義を行った。受講した学生は同研究科の修士課程、博士課程の大学院生 10 名であった。 2) ・奈良教育大学・奈良市教育委員会との世界遺産学習プログラムの開発は、今年度に科学研究費が獲得されたため、3 年間を一つの目処として、その開発・検討が始まった。 ・平成 23 年 12 月 24 日(土)・25 日(日)、なら 100 年会館及び奈良市教育センターを会場として、「世界遺産学習全国サミット in 奈良」を文部科学省・奈良市教育委員会・奈良教育大学等と共同で開催した。講演会・分科会などに約 600 人が参加し、初めて実施された「子ども会議」後、地域の文化を守る決意を込めた「子ども宣言」が出された。 3) インターンシップに関しては、募集を行ったが大学等からの要望がなかったため、今後の受け入れに備えて当館内の制度の見直しについて検討を始めた。									
【補足事項】									
【定量的評価】項目		23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
-		-	-	-		-	-	-	-
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 教育活動の充実 ③大学との連携							
【年度計画】 (九州国立博物館) 1) 博物館実習生の受け入れを実施する。 2) インターンシップによる研修生の受け入れを実施する。								
担当部課	交流課 総務課	事業責任者	課長 宮本裕一 課長 岩崎英明					
【実績・成果】 (九州国立博物館) 1) 博物館実習生の受け入れを実施した。 博物館実習生を15大学20人(男2人、女18人)、計10日間受け入れた。(うちキャンパスメンバーズ校は7大学11人) 2) インターンシップについては募集を行い、照会はあったが、受け入れには至らなかった。								
【補足事項】 1) 平成23年7月27日(水)から8月8日(月)の間、15校から20名の実習生を受け入れ、延べ10日間にわたる博物館実習を実施した。作品・資料の収集と管理、展示、保存科学、教育普及、地域交流・国際交流など、博物館の各機能に関する講義のほか、考古遺物・陶磁器などの作品取り扱い実習やIPM(総合的有害生物管理)を中心とした博物館科学実習、子ども向けワークショップの運営や体験コーナーでの対応などの来館者コミュニケーション実習等を行い、最後に、グループ毎に資料カードをもとにした展示案を作成する演習を行った。作成された展示案には秀逸なものもあり、体験型展示室「あじっば」において実現することを検討している。 参加大学: 福岡女子短期大学、京都造形芸術大学、九州産業大学、福岡教育大学、山口大学、西南学院大学、八洲学園大学、福岡大学、筑紫女学園大学、久留米大学、佐賀大学、九州大学大学院、活水女子大学、立命館大学、大阪芸術大学、計15大学20名 2) インターンシップについては、福岡県内の大学で構成する「福岡県インターンシップ推進協議会」や、海外からの照会はあるが、学生や協議会と博物館の求める人材や期間についてのマッチングがスムーズにいかず、実施できていないという現状がある。  ※西南学院大学と連携協力に関する協定を締結(24年2月29日)								
 <p>博物館実習の様子 (作品取り扱い実習)</p>								
 <p>博物館実習の様子 (子ども向けワークショップ運営)</p>								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
—	—	—	—		—	—	—	—
総合評価	S A ③ C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 2311-1

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①施設・設備等の充実(1/2)								
<p><b>【年度計画】</b> (4館共通)</p> <p>1) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。 (東京国立博物館)</p> <p>1) 多言語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。 2) より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。 3)～6) (略)</p>									
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	特別展室長	松嶋雅人	デザイン室長	木下史青	環境整備室長	大江信浩	
	総務部								
<p><b>【実績・成果】</b> (4館共通)</p> <p>1) すべての特別展で音声ガイドを実施し、来館者サービスの向上を図った。「空海と密教美術」展の音声ガイドでは、北大路欣也(俳優)のナビゲーター起用等が好評を博し、貸出率が25.2%となった。 (東京国立博物館)</p> <p>1) 多言語(日・英・中・韓)による案内及び誘導サイン等の充実を図った。 2) ・特別展「孫文と梅屋庄吉」において、可変調光盤と小型LEDスポットライトによる展示照明を行った。 ・「根付 高円宮コレクション」高円宮コレクション室における歴史的展示ケースへのLED照明器具の取付けを行った。 ・「東京国立博物館140周年特集陳列 天翔ける龍」特別1室天井にライティングダクトを増設した。</p>									
<p><b>【補足事項】</b></p> <p>・施設のバリアフリー化について検討し、概算要求を行った。(いずれも平成24年度施設整備費補助金当初予算にて整備予定)</p> <p>①表慶館の障がい者用エレベーター及びトイレの設置 ②黒田記念館の耐震改修工事に合わせた障がい者用エレベーター及びスロープの設置</p>									
									
			<p>多言語による案内 (考古展示室入口)</p>						
									
			<p>「根付 高円宮コレクション」 歴史的展示ケース</p>						
<b>【定量的評価】</b> 項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
音声ガイド貸出件数		319,172台	—	—		256,441	305,135	360,901	130,850
展示照明整備件数		3件	—	—		1	2	2	4
総合評価	S <b>A</b> B C F (S、Fの理由)								
<p><b>【中期計画記載事項】</b> 施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①施設・設備等の充実(2/2)								
【年度計画】 (4館共通) 1) (略) (東京国立博物館) 1) 2) (略) 3) 総合文化展における音声ガイドの導入について検討する。 4) 障がい者の方のために点字版パンフレット等を引き続き配布する。 5) 「総合案内パンフレット」(7カ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)「フロアガイド」(4カ国語：日、英、中、韓)の制作・配布する。 6) 本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、(3カ国語：英、中、韓)のカラーパンフレットを継続して制作・配布する。									
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	博物館教育課教育普及室長 伊藤信二 広報室長 小林 牧						
【実績・成果】 (東京国立博物館) 3) 平成22年度に実証実験を行なったスマートフォン端末を用いた館内ガイド「とーはくナビ」を、アンドロイド版スマートフォンアプリとして平成24年4月からの運用に向けて準備を行った。 4) 障がい者の方のために点字版パンフレット等を引き続き配布した。 5) 「総合案内パンフレット」(7カ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)「フロアガイド」(4カ国語：日、英、中、韓)の制作・配布を行った。 6) 本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ3カ国語(英、中、韓)のカラーパンフレットを継続して制作・配布した。展示テーマと主な展示作品の解説を収録した日本語版は展示替えに応じて更新・配布した。また、総合文化展の見学のポイントを示し、鑑賞と理解を促す子供向けワークシート「本館見学マップ」「暮らしの道具 今昔」「日本の伝統もよう」の3種を制作・配布した。									
【補足事項】 (東京国立博物館) 6) 「日本美術の流れ」パンフレット 日本語版 計28回更新 (第227号～第254号)									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
リーフレット等		7カ国語	7カ国語	A		7カ国語	7カ国語	7カ国語	7カ国語
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号 2312

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①施設・設備等の充実								
<b>【年度計画】</b> (4館共通) 1) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。 (京都国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替プログラムを継続して推進する。 2) 館内案内リーフレット(6ヵ国語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して制作・配布する。									
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 植田義雄 部長 西上 実						
<b>【実績・成果】</b> (4館共通) 1) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図った。 (京都国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替プログラムを継続して推進した。 2) 昨年度に製作した館内案内リーフレット(6ヵ国語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して配布した。									
<b>【補足事項】</b> ・音声ガイド利用台数 特別展覧会「法然－生涯と美術－」 (日本語版・一般向け) 15,915台(会期中は17,586台) 特別展覧会「百獣の楽園－美術にすむ動物たち－」 (日本語版・一般向け) 2,168台 特別展覧会「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション－」 (日本語版・一般向け) 14,906台 特別展覧会「中国近代絵画と日本」 (日本語版・一般向け) 1,106台 ・平常展示館の建替工事が引き続き継続中であるため、お客様の観覧を騒音や振動で妨げないよう配慮した。									
<b>【定量的評価】</b> 項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
音声ガイド貸出件数 リーフレット等		34,095台 6ヵ国語	－ 6ヵ国語	－ A		50,344 6ヵ国語	34,597 6ヵ国語	78,797 6ヵ国語	47,668 6ヵ国語
総合評価	S (A) B C F(S、Fの理由)								
<b>【中期計画記載事項】</b> 施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①施設・設備等の充実							
【年度計画】 (4館共通) 1) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。 (奈良国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施する。 2) 誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を確保する。 3) 座面を上下に動かせる車いすの整備を進め、障がい者の方の観覧環境の向上を図る。 4) 正倉院展の際に託児所を設置する。 5) なら仏像館における音声ガイドの導入について検討する。 6) 市販のゲーム機等を利用した子供向けの解説の作成について検討する。 7) ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行う。 8) 館内案内リーフレット(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。 9) なら仏像館の会場案内図、展示リストを作成する。								
担当部課	総務課	事業責任者	利用者サービス係長 築部一男					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 特別展において音声ガイドを活用した情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図った。 (奈良国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施した。 2) 誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を確保した。 3) 座面を上下に動かせる車いすは、現在、国内及び国外において製造していないため、整備が出来なかった。 4) 正倉院展の会期中に、託児所を開設し、多くの利用者があった。 5) なら仏像館における音声ガイドの導入について検討した結果、新ボランティア制度が平成24年4月から発足し、解説ツアーを実施することに伴い、音声ガイドと重複するところがあるため、解説ツアーの実施状況を受けて再度検討することになった。 6) 市販のゲーム機等を利用した子供向けの解説の作成について検討した結果、費用対効果等の観点から行わないこととなった。 7) ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行った。 8) 館内案内リーフレット(7ヵ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作した。 9) なら仏像館の会場案内図、展示リストを作成した。								
【補足事項】 1) 正倉院展の会期中、臨時的誘導サインを設置して、より快適な観覧環境を確保した。 4) 開設した託児所は、保育士2名を常駐して1歳児から未就学児までの預かりを予約制で実施した。会期中123名の利用があり、遠くは東京都、千葉県、埼玉県等からの利用者もいるなど、皆様に喜んでいただいた。 ・施設のバリアフリー化を実施し、車椅子の方、高齢者及び障がい者の利用にも配慮した快適な観覧環境を確保した。								
								
託児所			館内誘導サイン					
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
音声ガイド貸出件数	46,113台	—	—	変化	37,110	60,356	51,970	69,219
リーフレット等	7ヵ国語	7ヵ国語	A		7ヵ国語	7ヵ国語	7ヵ国語	7ヵ国語
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 2314-1

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3)快適な観覧環境の提供 ①施設・設備等の充実(1/2)							
<p><b>【年度計画】</b> (4館共通) 1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。 (九州国立博物館) 1)～(略)</p>								
担当部課	学芸部企画課 総務課	事業責任者	課長 文化交流展室長 課長	小泉恵英 河野一隆 岩崎英明				
<p><b>【実績・成果】</b> (4館共通) 1)年4回開催した特別展において展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを実施した。 (開館以来、音声ガイドを装備し、英語・中国語・韓国語の音声解説を提供しており、好評を博している。)</p>								
<p><b>【補足事項】</b> (4館共通) 1)特別展では、作品鑑賞のポイントや時代背景を分かりやすく解説する音声ガイドを提供し展示の理解を深めることに努めた。 当館では九州という土地柄、また文化交流をコンセプトとする館の性格上、欧米だけでなく、とくに韓国・中国からの旅行者や団体客が、特別展・文化交流展を問わず来館する。母国語での解説に対するニーズが高いことは、開館当初から容易に想像できたが、作品ネームや解説のキャプションの全てに4ヶ国語を表示することについては物理的な制約があった。このため、開館以来、文化交流展室では作品キャプションには日英のみで表示し、特筆すべき時代背景や鑑賞のポイントについては音声ガイドを導入し、用に充ててきたという経緯があった。 ただし、音声ガイドは総数が200台と限りがあり、観覧時間が限られたツアー客にとっては必ずしも便利とは言えないという声も一方で寄せられた。しかも平成20年度から上海から当地へ定期的に団体ツアー(コスタ・クルーズ)が来館する運びとなり、これをきっかけとして展示テーマを紹介するための外国語パネル(開館以来の英語に中・韓を加えたもの)を補い、ツアー客にも対応できるようにした。当館展示の特性として頻繁な展示替えに全て対応できてはいないが、空間デザインを大きく損なうことなく、かつ要を得た解説として定評がある。今後は表示対応への達成率を下げることなく実績を維持していきたい。</p>								
				  <p style="text-align: center;">多言語対応音声ガイド</p>				
<b>【定量的評価】</b> 項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
音声ガイド貸出件数	56,993台	—	—		74,367	67,663	139,159	81,717
総合評価	S <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">A</span> B C F (S、Fの理由)							
<b>【中期計画記載事項】</b>								
施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3)快適な観覧環境の提供 ①施設・設備等の充実(2/2)							
【年度計画】 (4館共通) 1) (略) (九州国立博物館) 1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。 2) 来館者にとって分かりやすい展示室内サインを開発し、快適な鑑賞環境を提供する。 3) 館内案内リーフレット(7カ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。 4) 文化交流展示室の展示ストーリーを、日本文化に初めて接する海外の来館者にも理解しやすいような、外国語のパンフレットまたはガイドブックを刊行する。 5) 英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを継続して制作する。								
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長	小泉恵英				
	総務課		文化交流展室長	河野一隆				
			課長	岩崎英明				
【実績・成果】 (九州国立博物館) 1) ケースや照明設備を総点検し、安全で快適な鑑賞空間の提供するため、日々向上に努めた。 2) エントランスの丸看板に、主要なトピック展示や季節感を表わすことによって、新鮮な展示をアピールした。 3) 館内案内リーフレット(7カ国語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して作成・配布した。 4) トピック展示「館蔵水墨画名品展」で、英語・中国語・韓国語を併記した図録を作成し、アジア圏の来館者に対応した。 5) 文化交流展示室では引き続き、英語・中国語・韓国語版のマップを展示替えに応じて更新し、作成・配布した。								
【補足事項】 (九州国立博物館) 1) トピック展示など文化交流展室の部分的リニューアルを通じて、快適で分かりやすい展示を日々追及・検討している。また、研究員だけの参加に止まらない、文化交流展示の内容検討会を月1回のペースで開催し、4年後の開館10周年のリニューアルに向けて問題点の洗い出しを行なっている。 2) 文化交流展室入口の丸看板「ようきんしゃった九博」は開館以来、当展示室の顔として変えていなかったが、トピック展示「日本とタイ ふたつの国の巧と美」で初めてトピック展示仕様とし、その後「彫漆」や「国宝 初音の調度」などでも変えることで来館者より好評を博している。 4) トピック展示「館蔵水墨画名品展」では水墨画の日・中・韓比較がテーマであったため、英語・中国語・韓国語の要約を図録に付した。 ○施設のバリアフリー化のため、障がい者用トイレ3ヶ所に音声案内装置を設置した。								
								
トピック展示「日本とタイ ふたつの国の巧と美」エントランスの看板								
								
障がい者用トイレの音声案内装置								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
リーフレット等	7カ国語	7カ国語	A		7カ国語	7カ国語	7カ国語	7カ国語
総合評価	S ① B C F(S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 2321

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営

**【年度計画】**  
(4館共通)

- 1) 来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
- 2) 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。

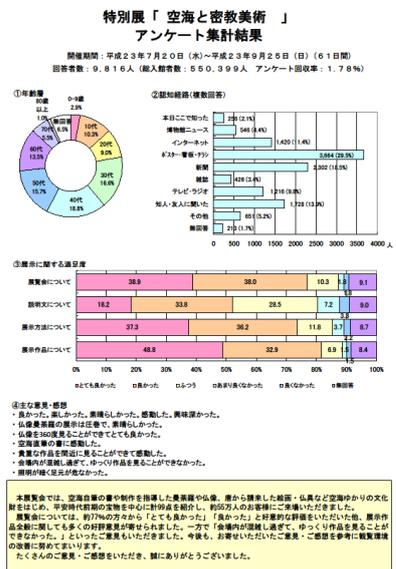
担当部課	総務部総務課	事業責任者	総務課長 樋口理央
------	--------	-------	-----------

**【実績・成果】**

- 1) タッチパネルアンケート(特別展、総合文化展)の実施  
平成館、本館で開催された全ての特別展及び本館での総合文化展でアンケートを実施し、その結果で環境改善に努めた。
- 2) ・夏季の「空海と密教美術展」や冬季の「北京故宫博物院 200選」期間中に、看護師の常駐、日傘の貸出やテント・給水所設置など来館者への配慮を行った。  
・館内外の利用案内や展示紹介(キャプション等)の整備など展示会場の環境維持に努めた。

**【補足事項】**

- 1) アンケートに書かれたキャプション等への指摘に従った訂正、見やすい角度などの環境改善を行った。  
・平成23年3月11日の東日本大震災による影響から来館者が一時的に減少し、アンケートへの回答数も減少した。  
・特別展の待ち時間をHPで配信した。  
・お客様からの質問・意見については、内容を職員へ周知し、質問についてはできる限り迅速に対応した。
  - 2) 冬季の「北京故宫博物院200選」における混雑対応  
・展示作品の1つである「清明上河図」の待ち列を館内に並べ、防寒対策を行った。  
・特に寒さが厳しい時に、外で列に並ぶお客様にカイロを配布した。  
(平成24年1月20日～22日の3日間で2,840個配布)  
・来館者数が事前に把握できる内覧会等について、試験的に整理券による入館規制を導入した。
- お正月企画における総合文化展の混雑対応
- ・お正月特別展示において総合文化展が混雑するため、観覧への注意事項のバナーを臨時で掲載した。(平成24年1月2日～1月29日)
  - ・特に混雑する本館1階、2階の監視員を臨時に2名増員した。(平成24年1月2日～1月9日)
- ベビーカーの貸出しを開始した。(23年12月7日から開始)
- お客様対応をよりスムーズにするため、無線機の全面デジタル化を行った。
- 特別展のチケットモギリ台が経年劣化しているため、新たに購入した。
- 本館前庭の喫煙所を全面禁煙とした。



タッチパネルアンケート集計結果

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
写楽満足度	80%	—	—	経年変化	—	—	—	—
手塚治虫のブッダ展満足度	63%	—	—		—	—	—	—
空海と密教美術満足度	77%	—	—		—	—	—	—
法然と親鸞 ゆかりの名宝満足度	68%	—	—		—	—	—	—
北京故宫博物院 200 選満足度	60%	—	—		—	—	—	—
孫文と梅屋庄吉 100 年前の中国と日本満足度	52%	—	—		—	—	—	—
総合文化展満足度	65%	—	—		—	84%	89%	88%

総合評価 S A B C F (S、Fの理由)

**【中期計画記載事項】**

一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。 順調

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営							
<b>【年度計画】</b>								
(4館共通)								
1) 来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。								
2) 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。								
(京都国立博物館・奈良国立博物館)								
1) 特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。								
(京都国立博物館)								
1) 大学との学术交流による特別展覧会観覧者アンケートを実施する。								
2) モニターを委嘱し、提言を受け、博物館運営に反映する。								
担当部課	総務課	事業責任者	総務課長 植田義雄					
<b>【実績・成果】</b>								
(4館共通)								
1) 来館者アンケートを実施し、その結果を改善に生かした。								
2) 特別展覧会「法然－生涯と美術－」において、以前から強い要望があった整理券システムを試行した。また混雑時には入場制限を行い、来館者の安全の確保、快適な観覧環境の維持に努めた。								
(京都国立博物館・奈良国立博物館)								
1) 特別展覧会等に関する専門家の展覧会評を求め、「博物館だより」に掲載した。								
(京都国立博物館)								
1) 通常のアンケートとは別に、学生ボランティアによる呼びかけアンケートを行い、より細かなニーズを調査するとともに、館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。								
2) 小学校・中学校・高等学校の教員、ミュージアムぐるっとパス関西加盟館の職員及びキャンパスメンバーズ加盟校の学生へモニターを委嘱し、提言を受けた。館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。								
<b>【補足事項】</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別展示館内及び庭園内において、混雑状況に応じて休憩場所の箇所を変更し、お客様が休憩しやすいようにした。前年度に引き続いて、特別展会期中、日よけテント、待合所テントの設置、自動販売機及び観光客の旅行用大型バッグ(カート)の収納が可能な大型コインロッカーの増設も行った。また、特別展示館入口前にもコインロッカーを設置し、お荷物を預け忘れたお客様が庭園まで戻る必要がないようにした。</li> <li>・また、前年度に引き続き、特別展会期中に入館までの待ち時間等の情報をHP等で掲載した。</li> <li>・当館職員を対象に、普通救命講習及びAED取扱講習会を実施した。全事務職員が普通救命講習を受講しており、衛士は上級救命講習を受講している。AED取扱についても繰り返し訓練している。</li> <li>・当館職員、臨時要員、売店・レストラン従業員、(公財)京都古文化保存協会学生ボランティアを対象として「マナー講習会」を実施した。</li> <li>・各展覧会の開催期間中に火災及び地震を想定した避難誘導訓練を実施し、職員等の防災に対する意識を高めた。</li> <li>・今年度は、ベビーカーを新たに1台購入し、ベビーカーが7台となり、乳幼児用設備の整備に努めた。</li> </ul>								
								
			臨時コインロッカー及びテント (右手奥は喫煙所テント)					
								
			AED取扱講習会風景					
<b>【定量的評価】項目</b>								
		23年度実績	目標値	評価	19	20	21	22
法然上人800回忌 法然－生涯と美術－満足度		89%	—	—	経年変化	—	—	—
百獣の楽園 －美術にすむ動物たち－満足度		93%	—	—		—	—	—
細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション－満足度		92%	—	—		—	—	—
中国近代絵画と日本－満足度		94%	—	—		—	—	—
平常展満足度		—	—	—		72%	70%	—
総合評価	S <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">A</span> B C F (S、Fの理由)							
<b>【中期計画記載事項】</b>								
一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調					

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号 2323

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ②来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営							
【年度計画】								
(4館共通)								
1) 来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。								
2) 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。								
(京都国立博物館・奈良国立博物館)								
1) 特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。								
担当部課	総務課	事業責任者	利用者サービス係長 築部一男					
【実績・成果】								
(4館共通)								
1) 来館者のニーズを引き出すため来館者にアンケートを実施し、その結果を改善に活かした。								
2) 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた来館者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努めた。								
(京都国立博物館・奈良国立博物館)								
1) 特別展「天竺へ」に関し、専門家の展覧会評を奈良国立博物館だよりに掲載した。								
【補足事項】								
○アンケートなどの意見を反映して、改善したこと								
・ 正倉院展の会期中、展示ケースのガラス清掃を業者委託により実施した。								
・ 正倉院展の会期中、臨時誘導サインを設置した。								
・ 正倉院展の会期中、トイレを順次見回り、汚れがあれば迅速に清掃を行った。								
・ ホームページのご意見箱の質問に対し、迅速に対応した。								
○混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対して工夫を行ったこと								
・ 正倉院展では、入場待ち列ができるためテントを設置し、また、映像を流すなどして、入場待ちの来館者に疲労を和らげる環境維持に努めた。								
・ 正倉院展では、混雑状況(待ち時間)の速報を、ハローダイヤル、近鉄奈良駅及びJR奈良駅で行った。								
・ 正倉院展では、入場待ち列の混雑緩和のため誘導案内を行った。								
・ 正倉院展では、宝物の配置及び音声ガイドを付ける宝物の展示場所の工夫を行った。								
								
入場待ち列テント								
【定量的評価】項目								
	23年度実績	目標値	評価		19	20	21	22
誕生！中国文明満足度	87%	—	—	経 年 変 化	—	—	—	—
天竺へ～三蔵法師3万キロの旅満足度	80%	—	—		—	—	—	—
第63回正倉院展満足度	73%	—	—		68%	75%	79%	77%
名品展満足度	74%	—	—		66%	67%	68%	75%
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ② 来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営							
【年度計画】								
(4館共通)								
1) 来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。								
2) 混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。								
(九州国立博物館)								
1) 隣接する旧九州歴史資料館跡地を利用して駐車収容台数を拡張する。								
担当部課	総務課	事業責任者	課長 岩崎英明					
【実績・成果】								
(4館共通)								
1) 来館者のニーズを引き出すため、平常展及び各特別展で来館者調査を実施した。								
2) 混雑が予想される展覧会について、入場者調節、展示レイアウトの工夫をし、展覧会場の快適な環境維持に努めた。								
(九州国立博物館)								
1) 旧九州歴史資料館跡地を利用して駐車収容台数を拡張した。								
【補足事項】								
(4館共通)								
1) 管理運営の改善のためアンケート結果を関係各課へ回覧した。								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常展アンケート 満足度 65% 回答数 257 件 (とても良い 34%、良い 31%、普通 13%、あまりよくない 4%、よくない 4%、無回答 14%)</li> <li>・特別展アンケート</li> <li>「黄檗展」 満足度 88% 回答数 523 件 (とても良い 60%、良い 28%、普通 8%、あまりよくない 2%、よくない 1%、無回答 1%)</li> <li>「よみがえる国宝展」 満足度 83% 回答数 1,084 件 (とても良い 53%、良い 30%、普通 10%、あまりよくない 3%、よくない 2%、無回答 2%)</li> <li>「草原の王朝 契丹展」 満足度 90% 回答数 632 件 (とても良い 52%、良い 38%、普通 6%、あまりよくない 1%、よくない 1%、無回答 2%)</li> <li>「細川家の至宝展」 満足度 83% 回答数 566 件 (とても良い 46%、良い 37%、普通 9%、あまりよくない 2%、よくない 2%、無回答 4%)</li> </ul>								
(九州国立博物館)								
1) 10月1日より、南側駐車場(旧九州歴史資料館跡地)に96台分の駐車スペースを増加させた。駐車場の増加に伴い、駐車場が満車になる日数が減少し、駐車場の待ち時間が大幅に短縮された。								
○太宰府消防署の協力により、地域と連携した防災訓練を実施した。								
○財団法人日本宝くじ協会助成事業を活用しベビーカーを1台導入した。								
								
旧九州歴史資料館跡地駐車場								
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	19	20	21	22
黄檗展満足度		88%	—	—	—	—	—	—
よみがえる国宝展満足度		83%	—	—	—	—	—	—
草原の王朝 契丹展満足度		90%	—	—	—	—	—	—
細川家の至宝展満足度		83%	—	—	—	—	—	—
平常展満足度		65%	—	—	64%	63%	66%	59%
総合評価		S (A) B C F (S、Fの理由)						
【中期計画記載事項】								
一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 東京国立博物館処理番号 2331

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実								
【年度計画】 ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。 (4館共通) 1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。									
担当部課	総務部総務課			事業責任者		課長 樋口理央			
【実績・成果】 ・レストランでは、正月にお年玉プレゼントや甘酒の振る舞いサービスを行い、また展覧会に合わせたメニューを提供する等、サービスの向上に努めた。 ・140周年グッズを開発した。 ・その他ミュージアムグッズについてもその都度、東京国立博物館運営協会と協議を重ね、新たな商品の開発に貢献した。(自在龍をモチーフとしたガラスの置物など) 1)新たなミュージアムグッズとして本館をモチーフにした立体ペーパークラフトを製作販売した。									
【補足事項】 ・140周年を期に、ミュージアムショップを運営する東京国立博物館運営協会の協力を得て、海洋堂製のカプセルフィギュア(考古学シリーズ第1弾)、資生堂パーラー製チーズケーキ、凸版印刷製「洛中洛外図」原寸大屏風レプリカをいずれも当館限定で24年3月20日から販売を開始した。 ・台東区立書道博物館と連携した特集陳列「呉昌碩の書・画・印」の開催期間中に、台東区立書道博物館の図録を販売し、連携企画の趣旨に沿った利用者サービスの向上に努めた。 ・今後もミュージアムショップやレストランと連携協力を図りつつ、利用者のニーズをより適切に反映できるよう努めていく必要がある。									
  									
<p>上 海洋堂製 カプセルフィギュア  中 資生堂パーラー チーズケーキ  下 凸版印刷製 「洛中洛外図屏風」原寸大レプリカ</p>									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
—		—	—	—		—	—	—	—
総合評価	S <b>(A)</b> B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実								
<p>【年度計画】</p> <p>ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。 (京都国立博物館)</p> <p>1) レストラン利用者にアンケート調査を行いサービス向上に努める。</p>									
担当部課	総務課	事業責任者	課長 植田義雄						
<p>【実績・成果】</p> <p>(4館共通)</p> <p>1) 新規にオリジナルグッズを作成し、また展覧会に応じた関連商品、関連書籍等を取り揃え、サービスの向上に努めた。 (京都国立博物館)</p> <p>1) レストラン利用者にアンケート調査を実施し、アンケートの集計結果をレストラン外部委託業者に提示し、さらなる接客サービスの向上に努めた。</p>									
<p>【補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南門施設は平成 21 年 7 月にオープンし、ミュージアムショップ、レストラン、インフォメーションコーナーがあり、入場料を払わずにお客様が利用できるスペースとなっている。3 業務とも外部業者に委託しているが、連絡を密にとり、当館の要望に応えた運営になるよう心がけた。</li> <li>・特別展示館が閉館の期間についても、ミュージアムショップ、レストラン及びインフォメーションコーナーは営業を行った。</li> <li>・当館職員だけでなく、委託している外部業者も当館が開催するマナー講習会に参加し、接客サービスの向上を図った。</li> <li>・当館オリジナルグッズとして、クリップ、立体カード、ジグソーパズル等を実験的に作成し、ミュージアムショップ及び特別展物販コーナーにて販売を始めた。</li> <li>・来館できない方には、図録等の通信販売を実施した。</li> <li>・ミュージアムショップにおいて、平成 22 年度に引き続き、350 種類の絵はがきを販売し、日本美術を中心としたグッズを販売した。</li> <li>・インフォメーションコーナーでは、展覧会関係及び京都観光案内等のチラシ・ポスターを掲示したり、英会話のできる人員を配置するなど、当館の案内だけでなく京都市内の観光案内等も行った。</li> <li>・平成 22 年度に引き続き、ミュージアムショップ、レストラン、インフォメーションコーナー共通の営業カレンダーを製作し、掲示した。</li> </ul>									
		オリジナルグッズ(クリップ)							
		オリジナルグッズ(立体カード)							
		オリジナルグッズ(ジグソーパズル)							
【定量的評価】項目		23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
-		-	-	-		-	-	-	-
総合評価	S <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">A</span> B C F (S、Fの理由)								
<p>【中期計画記載事項】</p> <p>ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号 2333

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実								
<p><b>【年度計画】</b>                  ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。                  (4館共通)                  1) オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。                  (奈良国立博物館)                  1) ノベルティグッズを作成し、来館者に配布するなどのサービスを行う。                  2) 仏教美術に関する図書の販売の充実を図る。                  3) 寄附金の受け入れ、賛助会の会費及び館主催のイベント料金の支払い等について、クレジットカードで決済できるような方策を検討し、利用者の利便性の向上を図る。                  4) より快適な環境を提供できるよう、メニューを含めレストランのリニューアルを検討する。</p>									
担当部課	総務課	事業責任者	利用者サービス係長 築部一男						
<p><b>【実績・成果】</b>                  (4館共通)                  1) オリジナルグッズ(クッキー、ワイン)の商品をレストランで販売し、サービスの向上に努めた。                  (奈良国立博物館)                  1) 平成24年1月2日に来館された方、正倉院展のオータムレイトの観覧券を購入した方に非売品のしおりなどを配布するサービスを行った。                  2) 仏教美術に関する図書の販売の充実を図った。                  3) 寄附金の受け入れ、賛助会の会費及び館主催のイベント料金は、大半が口座振り込みにより支払われているため、クレジットカード決済による利用者の利便性が見込めないことから、クレジットカード決済の導入は、見合わせるようになった。                  4) より快適な環境を提供できるよう、レストランのリニューアルを行った。</p>									
<p><b>【補足事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レストランと当館が共同でオリジナルのクッキーとワインを作成し、サービスの向上に努めた。なお、クッキー缶のデザインとワインの名称(Musee Nara)は、当館で考案した。</li> <li>・ レストランのテーブル、クロス及び椅子を新たに入れ替えるなど、より快適な環境を提供できるようにリニューアルを行った。</li> </ul>									
					 <p>オリジナルクッキー</p>				
					 <p>オリジナルワイン</p>				
<b>【定量的評価】</b> 項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
-		-	-	-		-	-	-	-
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
<p><b>【中期計画記載事項】</b>                  ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3)快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実							
【年度計画】								
ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。								
(4館共通)								
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。 (九州国立博物館)								
1)特別展に関連した特別メニューを提供するなど、サービスの向上に努める。								
担当部課	広報課	事業責任者	課長 梶村正年					
【実績・成果】								
(4館共通)								
1)ミュージアムショップでは、特別展及び文化交流展の展示内容に即した商品陳列を行い、オリジナル商品の陳列面積を増やすとともに地場産業のお菓子やグッズなどを提供した。 (九州国立博物館)								
1)レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。								
【補足事項】								
(4館共通)								
1)博物館の6周年にあわせた記念セット商品を販売した。 また、当館の所蔵品をモチーフにしたオリジナル商品「クリアファイル」を販売した。								
(九州国立博物館)								
1)特別展に関連したメニューを提供した。 冬に開催した特別展「細川家の至宝」は、細川家ゆかりの地、熊本づくし。熊本の名物料理を集めた「肥後弁当」2,100円は、蓮根を輪切りにした断面が細川家の家紋に似ていたことから熊本の名物となったからし蓮根や、阿蘇特産自然豚の生姜風味の蒸し焼き、南関揚げなどを提供。 また「阿蘇豚と高菜のピラフ(だご汁付き)」や熊本のいきなり団子風に仕上げた「さつま芋入りぜんざい(ほうじ茶付き)」なども提供。								
								
「阿蘇豚と高菜のピラフ(だご汁付き)」				6周年記念セット				
				クリアファイル				
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
—	—	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 2411

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ① デジタル化の推進							
【年度計画】 (4館共通) 1) 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。 2) 収蔵品の国宝・重要文化財について、5ヵ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e 国宝)を継続して公開する。 3) 約9,000件(東京:3,000、京都:2,000、奈良:3,000、九州:1,000)の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。 (東京国立博物館) 1) 外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」(学芸業務支援システム)の構築を進め、博物館機能の充実を図る。 2) 収蔵品に関する基本情報のデータ化を引き続き推進するとともに、複数あるデータベースを統合して公開することに向けた整備を進める。 3) 法隆寺献納宝物について、5ヵ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」)等の提供を法隆寺宝物館にて継続して実施する。								
担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	課長 高橋裕次					
【実績・成果】 (4館共通) 1) デジタル画像を資料館及びインターネットで公開した。 2) 国宝・重要文化財の高精細画像(e 国宝)を継続して公開した。 3) 既存フィルムはほぼすべてデジタル化済みであり、平成23年度新規フィルム撮影のほぼ全てにあたる1,468枚をデジタル化した。 (東京国立博物館) 1) 「列品管理プロトタイプデータベース」を改善し、学芸業務支援の機能を充実させた。 2) 収蔵品情報のデータ化とデータ整備を推進した。 3) 「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」を法隆寺宝物館にて継続して提供した。 ・東京国立博物館情報アーカイブの運用を継続し、収蔵品、調査研究成果等の情報公開の充実を図った。								
【補足事項】 画像管理システムの運用を本格化し、資料館閲覧室において来館者向けにデジタル画像を提供した。また同システムから抽出したデータをインターネットで公開した。インターネット公開では、画像検索をリニューアルして大幅に性能を向上させた。また公開した画像は一定の条件下で無償利用が可能とし、一般利用者の利便性向上を図った。 既存フィルムのデジタル化は3,000枚の計画であったが、デジタル撮影が本格化しフィルムによる新規撮影が想定を大幅に下回ったため1,468枚に留まった。 収蔵品情報のデータ化では、画像データ、文字データの整備のほか、三次元計測(6件)を実施した。 iOSアプリ「e 国宝」のバージョンアップを行い、iPadへの正式対応に加え、「Twitter」の機能と連携したブックマークの共有機能を搭載し、自分の作成したブックマークの公開や他のユーザーが作成したブックマークの閲覧を可能にした。(24年3月)								
								
インターネット公開「画像検索」								
【定量的評価】項目								
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
うちカラーフィルム	1,468件	3,000件程度	C(A)		124,996	139,000	775,300	8,639
うちモノクロフィルム	1,392件	—	—		3,396	2,583	3,480	5,136
うちマイクロフィルム	76件	—	—		0	14,817	23,639	3,503
うちマイクロフィルム	0件	—	—		121,600	121,600	748,181	0
総合評価	S (A) B C F(S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。 収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ① デジタル化の推進								
<b>【年度計画】</b> (4館共通) 1) 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。 2) 収蔵品の国宝・重要文化財について、5カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e 国宝)を継続して公開する。 3) 約9,000件(東京:3,000、京都:2,000、奈良:3,000、九州:1,000)の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。 (京都国立博物館) 1) 収蔵品について多国語の説明を付した国宝重要文化財・名品 高精細画像閲覧システムの整備を継続して実施する。									
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 鬼原俊枝						
<b>【実績・成果】</b> (4館共通) 1) 収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収蔵品データベースの登録を随時行い、当館デジタルアーカイブ及び公開情報サービスを行った。 2) 収蔵品の国宝・重要文化財について、5カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e 国宝)を継続して公開した。 3) 2,165件の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した。 (京都国立博物館) 1) 重要文化財高精細画像公開システム「KNM GALLERY」で平成21年度より公開されている6カ国語(日英韓中仏西)による解説について、内容及び表示方法等について修正を行った。									
<b>【補足事項】</b> ・平成22年度に引き続き、マイクロフィルムのデジタル化及びX線フィルムのデジタル化を行った。									
									
重要文化財高精細画像公開システム「KNM GALLERY」									
<b>【定量的評価】項目</b>		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数		2,165件	2,000件程度	A		—	—	—	—
総合評価	S <b>A</b> B C F(S、Fの理由)								
<b>【中期計画記載事項】</b> 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。 収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

【書式A】

施設名 奈良国立博物館処理番号 2413

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ① デジタル化の推進								
【年度計画】 (4館共通) 1) 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。 2) 収蔵品の国宝・重要文化財について、5カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e 国宝)を継続して公開する。 3) 約9,000件(東京:3,000、京都:2,000、奈良:3,000、九州:1,000)の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。 (奈良国立博物館) 1) 収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図る。 2) 写真データベースの個別データを約2,000件追加更新する。 3) 修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討する。 4) 仏教美術資料研究センターのウェブサイト(蔵書検索)の開設と、利用案内パンフレットの作成を実施して、仏教美術情報の公開・普及を図る。 5) 地下回廊のタッチパネル式学習端末機で名品のハイビジョン映像等を公開する。									
担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長 宮崎幹子						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 収蔵品データベースと画像データベースの公開により、来館者及びインターネットでの情報提供を継続して行った。 2) 国宝・重要文化財のデジタル高精細画像(e 国宝)を継続して公開した。 3) 収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した(5,297件)。 (奈良国立博物館) 1) 収蔵品データベースに継続して情報を蓄積し、画像、解説文、文献情報を充実させた。 2) 画像データベースの個別データを4,370件追加更新した。 3) 「美術院彫刻等修理記録」の整理とデータ化を継続して行い、データベースの構成について検討した。 4) 仏教美術資料研究センターのウェブサイトを開設し、また利用案内パンフレットをあらたに作成して、仏教美術情報の公開・普及を図った。 5) 地下回廊にタッチパネル式学習端末機を設置し、収蔵品の中から名品の画像を公開した。									
【補足事項】 収蔵品についての情報提供を充実させるべく、収蔵品データベースの個別情報から、関連データベース(画像データベース、蔵書目録)の個別情報へ直接リンクする機能を追加した。これにより、収蔵品に関する情報資源の連携が実現した。 また、昨年度より実質的な運用を開始した、内部用の画像情報システムの安定稼働をうけて、外部公開用の画像データベースのリプレースを実施した。これにより、画像データの提供機能が強化された。 仏教美術資料研究センターのウェブサイトでは、蔵書目録(OPAC)の公開を開始した。仏教美術に関する文献資料の管理に適したカスタマイズをおこない、より詳しい書誌情報の発信を可能とする環境を整備した。									
									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数		5,297件	3,000件程度	S		695	1,410	90,555	4,311
写真データベースの個別データ追加更新件数		4,370件	2,000件程度	S		3,889	6,989	12,339	5,190
総合評価	S (A) B C F(S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。 収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ① デジタル化の推進							
<b>【年度計画】</b> (4館共通) 1) 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。 2) 収蔵品の国宝・重要文化財について、5カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e 国宝)を継続して公開する。 3) 約9,000件(東京:3,000、京都:2,000、奈良:3,000、九州:1,000)の収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。 (九州国立博物館) 1) インターネット及び来館者用館内端末を通じ、収蔵品デジタル画像を利用したデジタルアーカイブの運用を開始する。 2) 収蔵品に関するコンテンツを順次追加し、デジタルアーカイブの充実を図る。 3) 海外調査で撮影した写真やビデオを展示や教育普及事業で活用するための整備を行う。								
担当部課	学芸部文化財課 交流課	事業責任者	資料管理室長 主任研究員	小林公治 池内一誠				
<b>【実績・成果】</b> (4館共通) 1) 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行った。 2) 収蔵品の国宝・重要文化財について、5カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e 国宝)を継続して公開した。 3) 目標としていた1,000件を超える収蔵品写真等のデジタル化を実施した。 (九州国立博物館) 1) 本年度4月1日より、インターネット及び来館者用館内端末 PC2台により九州国立博物館でデジタルアーカイブの公開を開始した。 2) 今年度は平成22年度の購入品を中心に、コンテンツを追加するとともに、画面構成を改良した。 3) 平成20年度・22年度に撮影・録音したデータをもとに、新規映像コンテンツとして「モンゴルの遊牧民」「ベトナムの水上人形」「ウズベキスタンの絨毯作り」、新規音声コンテンツとして「馬頭琴とホーミー」「ウズベキスタンの鳥市場」を制作し、「あじっぱ」において展開した。また、映像素材の画角変更にともない、再生機器(モニタ)も従来の3:4のものから9:16のものに変更し、スクリーンセーバーも焼き付きの危険性を可能な限り抑さえたものに変更した。								
<b>【補足事項】</b> (4館共通) 2) e 国宝については、若干の修正を行い継続して公開している。 3) 本年度は、新たに当館の所蔵品となったものの他、昨年度に引き続き国宝栄花物語の全体撮影を継続している。 (九州国立博物館) 1) 2) 昨年度公開を始めた当館独自のデジタル・アーカイブのコンテンツは国指定文化財に限られていたが、今年度からは指定品以外の当館の所蔵品についても逐次公開を進めることとした。 3) 各映像・音声コンテンツの長さは以下のとおり。 「モンゴルの遊牧民」: 2分55秒、「ベトナムの水上人形」: 4分12秒 「ウズベキスタンの絨毯作り」: 4分46秒、「馬頭琴とホーミー」: 2分57秒 「ウズベキスタンの鳥市場」: 2分31秒 ※収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数は、22年度まではフィルムスキャン件数、デジタル撮影件数を合算して計上していたが、23年度からはフィルムスキャン件数のみ計上。								
<b>【定量的評価】</b> 項目		23年度実績	目標値	評価	19	20	21	22
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数		2,146件	1,000件程度	S	3,295	3,963	3,574	1,391
総合評価		S (A) B C F (S、Fの理由)						
<b>【中期計画記載事項】</b> 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。 収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				



収蔵品デジタルアーカイブ  
(来館者用館内端末 PC)

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 2421

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化							
【年度計画】								
美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。								
(4館共通)								
1)約9,500件(東京:3,000、京都:3,000、奈良:3,000、九州:500)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。								
(東京国立博物館)								
1)資料館において、美術史等の情報及び資料を一般に広く公開するために、図書管理システムを軸とした図書資料などのデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。								
2)法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続実施する。								
3)調査・研究・教育などに有益な情報及び関係資料を収集するための方針を策定する。								
4)資料館の機能の拡充に向け、閲覧スペースや書庫、事務室等の区画・配置を始め、資料館全体の在り方を再検討し、有効活用へ向けた利用計画を策定する。								
担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	課長 高橋裕次					
【実績・成果】								
(4館共通)								
1)本年度は10,566件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。								
(東京国立博物館)								
1)資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、図書資料等のデータ整備を推進した。								
資料館において資料の閲覧、複写およびレファレンスサービスを継続して実施した。								
2)法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続した。								
3)博物館の調査研究、展示等の業務を支援し一般利用者の利用に供するため、関連する図書及び関係資料を収集した。								
収集件数：購入図書174冊、寄贈・交換図書3,796冊、館蔵品等の写真資料10,566枚								
4)図書配置計画の変更に伴い埋蔵文化財報告書用書架の増設を行い、別置していた図書を収容した。								
○資料館への入退館について、従来は西門を経由していたが、利用者サービスの向上の一環として9月1日より新たに正門からの来館者が資料館東口から資料館に入り、利用後再び有料ゾーンに戻る事が可能な経路を設けた。								
【補足事項】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書購入費の大幅な減額により、十分な図書購入を行えなかった。</li> <li>・図書整理は、漢籍(線装本)約5,074冊、複製本263冊など計5,459冊の既存図書のデータを作成した。</li> <li>・当館開催の展覧会の出品作品データの蓄積に努めた。</li> <li>・図書館システムのリプレースの時を迎え新システムへの移行を検討し、クラウド型の図書館システムを導入する準備を行った。</li> <li>・入退館経路の変更に伴い、西門の入退館手続きの検討、ドア鍵等の設置、案内板・掲示等の整備を行った。</li> <li>・国立情報学研究所の目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)および美術館図書横断検索に継続して参加し当館蔵書への検索サービスの向上に努めた。</li> <li>・当館刊行図書等の目次・論文データの入力、および収載された列品番号の入力を行った。</li> </ul>								
(OPAC公開数：図書約19万冊、雑誌約7千タイトル、目次・論文データ約6千件)								
・図書資料の展示コーナーおよび新着書架において、所蔵資料の紹介(年5回)、月毎の新着資料の展示、展覧会関連図書の展示を行った。また、新着図書の案内等のライブラリーニュースを随時発信し広報に努めた。								
【定量的評価】項目								
	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	10,566件	3,000件程度	S		3,642	4,721	16,567	11,343
うちフィルム撮影	1,379件	—	—		3,642	4,703	4,177	5,377
うちデジタル撮影	9,187件	—	—		—	18	12,390	5,966
新規図書整理	3,970件	—	—		4,013	7,781	3,411	7,345
遡及図書整理	5,459件	—	—		4,574	5,709	11,105	7,836
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				



資料館閲覧室内

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化								
<p>【年度計画】</p> <p>美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。</p> <p>(4館共通)</p> <p>1)約9,500件(東京:3,000、京都:3,000、奈良:3,000、九州:500)の収藏品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。</p>									
担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長 鬼原俊枝						
<p>【実績・成果】</p> <p>1)収藏品、出品作品等の新規撮影は、フィルム撮影を3,410枚、デジタル撮影を170枚行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本年度から収藏品写真の貸与形態をフィルムからデジタルデータに全面移行し、収藏品フィルムの一括デジタル化作業を本格的に開始した。</li> <li>調査、研究、教育等に資するため、図書資料においては、新規図書5,200冊、逐次刊行物2,623冊を収集した。</li> </ul>									
<p>【補足事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>科学研究費「南山城地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究」(三カ年)による同地域諸持院(海住山寺、笠置寺、一休寺、蟹満寺、神童寺)の調査に伴い出張撮影を行った。当館の展覧会出品作品の撮影は、「法然 生涯と美術」展、「細川家の至宝」展、「中国近代絵画と日本」展、また24年4月開始予定の「陽明文庫名品展」関係を対象として進めた。</li> <li>大量一括寄贈、あるいは多数の寄贈者があった際に整理が進められず、未整理及び未登録となっていた本の入力、また複本を新規購入図書とは別に遡及入力するなど、5年をかけて図書資料の整理を進めてきた。その結果、このたび約42,000冊をデータに反映させた。</li> <li>本年度から、収藏品写真の貸与形態をフィルムからデジタルデータに移行し、フィルムのデジタル化作業を進めている。多様なニーズに答えるため、貸与希望の多い作品を優先して進め、また絵巻のような連続した写真の要望が多い作品のデータの整備も早期に進めている。</li> <li>デジタル画像の提供は、別途「@KYOTOMUSE Digital Archives」(artize.net)を介し継続的に行っている。</li> <li>図書管理システム、資料の登録・検索を行う文化財情報システムについては、情報システム検討委員会で課題を検討しつつ、運用している。</li> </ul>									
 <p>南山城古寺調査における 染織資料調査状況</p>									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年 変化	19	20	21	22
収藏品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数		3,580件	3000件程度	A		4,256	6,478	3,753	3,379
うちフィルム撮影		3,410件	—	—		—	—	—	—
うちデジタル撮影		170件	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
<p>【中期計画記載事項】</p> <p>美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号 2423

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化								
<p>【年度計画】</p> <p>美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。</p> <p>(4館共通)</p> <p>1)約9,500件(東京:3,000、京都:3,000、奈良:3,000、九州:500)の収藏品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1)図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。</p> <p>2)仏教美術資料研究センターの耐震補強工事完了をうけて、利用者に対し利便性向上を図るため、資料配置を全面的に見直し、資料の有効的な活用と効率的な運用について検討し、実施する。</p>									
担当部課	学芸部資料室	事業責任者	室長 宮崎幹子						
<p>【実績・成果】</p> <p>(4館共通)</p> <p>1)収藏品・展覧会等出品作品等の新規撮影を多数行い、関連データを整備した(6,103件)。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>1)図書情報システム及び画像情報システムによる情報蓄積を推進し、仏教美術資料研究センター及びインターネットにおいて情報公開を充実させた。</p> <p>2)仏教美術資料研究センターの工事完了をうけて、新しい平面プランと利便性に配慮した、資料配置の全面的な見直しを行った。また閲覧スペース、研修室を拡大するなど、情報利用環境の向上に資するべく努力した。</p>									
<p>【補足事項】</p> <p>館内で運用中の画像情報システムの安定稼働を踏まえて、仏教美術資料研究センター及びインターネットで公開している画像データベースのリプレースを行い、画像データの提供機能を強化した。特に仏教美術資料研究センターで公開するデータベースに関しては、インターネットで公開するデータベースとの適切な分離を行い、収藏品以外の画像データも閲覧できる環境を整備した。これは従来作成していた写真カードによる情報提供に代わるもので、画像データの迅速な公開と利用者の利便性の確保を目指した。</p> <p>また、仏教美術資料研究センターの改修工事完了を機に、センターと建物の歴史を解説する冊子および案内パンフレットを作成した。今回の工事は、文化財建造物の保存活用を目指したもので、情報公開施設としての意義とともにその活動を一般来館者に向けて広報することは、当館としても重要なことである。冊子および案内パンフレットは、関係者からも高い評価を得た。</p> <p>工事後から再開までの間に、資料配置の全面的な見直しを行い、情報利用環境の向上に努めた。案内パンフレットには、新しい資料配置図や利用できるデータベースを掲載し、館内サインも新規に整備した。</p>									
									
仏教美術資料研究センター解説冊子									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
収藏品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数		6,103件	3,000件程度	S	経年変化	3,240	6,457	5,818	11,684
うちフィルム撮影		219件	—	—		3,240	6,457	5,818	1,725
うちデジタル撮影		5,884件	—	—		—	—	—	10,677
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
<p>【中期計画記載事項】</p> <p>美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化								
<p>【年度計画】</p> <p>美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。</p> <p>(4館共通)</p> <p>1)約9,500件(東京:3,000、京都:3,000、奈良:3,000、九州:500)の収藏品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1)対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施する。</p> <p>2)博物館資料(収藏品、図書、写真など)データベースにおける業務の効率化に向けて、現行業務システムを全面的に見直し、より充実した第2次業務システム構築を目指す。</p>									
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	資料管理室長	小林公治					
<p>【実績・成果】</p> <p>(4館共通)</p> <p>1)目標とした500件を超える収藏品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>1)対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施した。</p> <p>2)博物館資料(収藏品、図書)データベースによる業務の効率化に向けて、現行業務システムを全面的に見直し、より充実した第2次業務システム構築を行った。</p>									
<p>【補足事項】</p> <p>(4館共通)</p> <p>1)収藏品・出品作品などについて、従来から行ってきた4×5版を主体とするポジフィルム撮影に加え、近い将来の移行が必至な高精細デジタル撮影の標準化に向けて、文化財のデジタル撮影情報の入手につとめ、さらに高性能デジタルカメラによる試し撮影を行い、両者の併用あるいはスムーズな移行について検討した。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <p>2)博物館収藏品に関する基本情報データベースの構築と、展示・画像・文化財修復といった今後構築する予定となっている博物館諸情報システムとの機能的な連携をめざし、今年度は新収藏品システムの設計、開発を行い、新年度からの本格運用を実施する。</p> <p>なお、この新収藏品システムは既存のパッケージソフトに頼らない、独自のソフト設計開発により行った。</p> <p>※収藏品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数については、21年度までは、フィルム撮影件数、デジタル撮影件数、デジタルデータ作成件数を合算して計上していたが、22年度からフィルム撮影件数とデジタル撮影件数の合算を計上。</p>									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
収藏品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数		4,441件	500件程度	S		12,556	6,633	4,686	1,393
うちフィルム撮影		2,175件	—	—		—	—	—	1,357
うちデジタル撮影		2,266件	—	—		—	—	—	36
総合評価	S (A) B C F(S、Fの理由)								
<p>【中期計画記載事項】</p> <p>美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					



収藏品写真撮影風景

【書式A】

施設名 本部事務局

処理番号 2430

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ③ 広報計画の策定と情報提供

**【年度計画】**  
(機構本部)

- 1) 機構の概要、年報を作成する。
- 2) 機構本部ウェブサイトを活用し、法人情報の提供を行う。

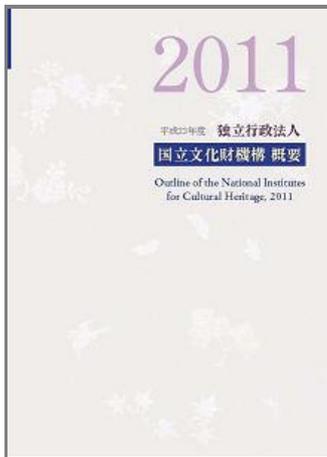
担当部課 本部事務局総務企画課 事業責任者 課長 藤本慎也

**【実績・成果】**  
(機構本部)

- 1) 『独立行政法人国立文化財機構概要 平成23年度』を23年7月に発行し、PDF版をウェブサイトに掲載した。  
『独立行政法人国立文化財機構年報 平成22年度』を24年1月に発行し、PDF版をウェブサイトに掲載した。
- 2) 機構本部ウェブサイト(<http://www.nich.go.jp/>)の全面リニューアルを行い、23年4月1日に新本部ウェブサイトを立ち上げた。掲載情報の追加・更新を随時行い、法人情報の公開・提供を継続するとともに、23年10月開設のアジア太平洋無形文化遺産研究センターのウェブサイト公開に合わせてトップページのレイアウトを調整した。

**【補足事項】**

- 1) 『平成23年度概要』: 2,700部、カラー44ページ、和英併記。  
『平成22年度年報』: 280部、カラー4ページ・モノクロ1,100ページ。
- 2) 機構本部ウェブサイトアクセス件数: 208,982件。



『独立行政法人国立文化財機構概要 平成23年度』



機構本部ウェブサイトトップページ  
(アジア太平洋無形文化遺産研究センター追加後)

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
—	—	—	—		—	—	—	—

総合評価 S (A) B C F (S, Fの理由)

**【中期計画記載事項】**

展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

中期計画に対して順調に成果を上げているか。 順調

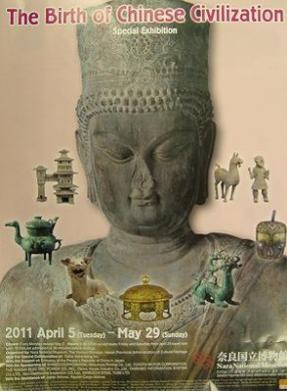
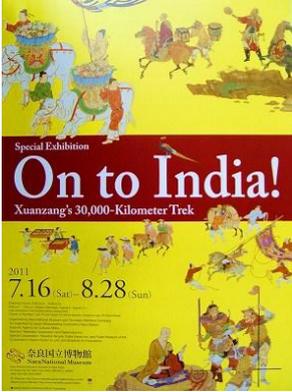
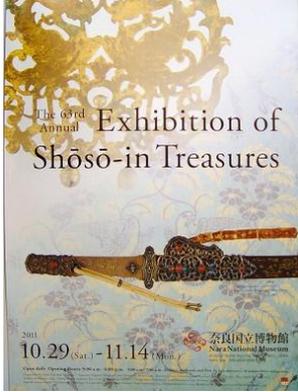
中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ③ 広報計画の策定と情報提供								
【年度計画】 (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 (東京国立博物館) 総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。 1)広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。 2)本館2階「日本美術の流れ」のテーマ解説及び主な展示作品の解説をまとめ、展示替ごとに更新する日本語パンフレットを継続して作成し、配布する。 3)平成24年度の東洋館リニューアルオープン及び開館140周年に向けての広報展開の企画・運営を行う。									
担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	室長 小林牧						
【実績・成果】 (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレットを制作(35,000部 DM、館内配布)した。 (東京国立博物館) 1)「東京国立博物館ニュース」(隔月刊)、「博物館でお花見を」「博物館に初もうで」ほか各種広報印刷物を制作・配布した。 2)「日本美術の流れ」パンフレットに関しては処理番号2311-2を参照。 3)東京国立博物館140周年「ブンカのちからにありがとう」キャンペーンを実施。併せて東洋館リニューアルオープンの告知を行った。									
【補足事項】 3)東京国立博物館140周年「ブンカのちからにありがとう」キャンペーン									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・140周年ロゴ及び館のPRを行うキャラクターを作成。140周年の認知度アップを図るとともに、より親しみやすい館のイメージを作った。</li> <li>・女優中谷美紀氏を起用したビジュアルを制作。交通広告・新聞広告展開で東京国立博物館の認知度アップを図った。当該広告は、第79回毎日広告デザイン賞部門賞を受賞した。</li> <li>・140周年記念パンフレットを作成し、総合文化展の集客力アップを狙ったスタンプラリーを展開した。</li> <li>・140周年記念グッズ(海洋堂によるフィギュア、資生堂パーラー菓子、洛中洛外図屏風複製。詳しくは処理番号2331参照。)の制作にあわせた周知活動を行った。</li> <li>・140周年ありがとうブログを立ち上げ、更新を継続し、「人の顔の見える」広報展開を実施した。</li> </ul>						 <p>140周年ロゴとキャラクター</p>			
						 <p>140周年キャンペーンポスター</p>			
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
-		-	-	-		-	-	-	-
総合評価	⑤ A B C F(S、Fの理由)140周年キャンペーンにより、東京国立博物館および総合文化展の認知度を高めた								
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号 2432

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ③ 広報計画の策定と情報提供								
<b>【年度計画】</b> (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。									
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 久保智康						
<b>【実績・成果】</b> 1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。									
<b>【補足事項】</b> 1)平成23年4月～平成24年3月の展覧会日程を記載した年間スケジュールリーフレットを作成・配布した。(20,000部)									
									
年間スケジュールリーフレット									
<b>【定量的評価】項目</b>		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
-		-	-	-		-	-	-	-
総合評価	S <b>Ⓐ</b> B C F (S、Fの理由)								
<b>【中期計画記載事項】</b> 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ③ 広報計画の策定と情報提供								
<b>【年度計画】</b> (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 (奈良国立博物館) 1)広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。 2)広報活動を多面的に行うため、広報の外注化を検討する。 3)広報業務を一元化するとともに、戦略的な広報体制を整備する。 4)英語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。 5)特別展の際に、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施し、タクシー・ホテル等利用者への広報活動を展開する。 6)地元の観光協会に入会し、観光協会を通じて観光客への広報活動を展開する。									
担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室	事業責任者	室長 野尻 忠 総括専門職員 吉田貴至						
<b>【実績・成果】</b> (4館共通) 1)平成23年5月～24年5月の展覧会日程を記載したリーフレットの初版を5月に5,000部、一部改訂版を9月に30,000部作成し、配布した。 (奈良国立博物館) 1)それぞれの展覧会の特性や意義に応じた広報の方針、および印刷物の部数を議論する広報戦略委員会を、6回実施した。 2)広報戦略委員会において外注化を検討したが、経費等の問題があり、引き続き検討課題とする。 3)館内各部署から発送していた展覧会チラシを、情報サービス室から一元的に発送する体制に移行した。 4)特別展では、英文チラシを作成、外国人観光客向けの情報発信を行った。 5)特別展では、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施、タクシー・ホテル等の利用者への広報活動を行った。 6)奈良市観光協会への入会をはじめ、積極的に地元観光業界の会合に出席し、広報活動を展開するとともに情報収集に努めた。									
<b>【補足事項】</b> 4)英文チラシの例									
									
「誕生！中国文明」		「天竺へ」		「第63回正倉院展」					
<b>【定量的評価】項目</b>		23年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	19	20	21	22
—		—	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
<b>【中期計画記載事項】</b> 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 2434

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ③広報計画の策定と情報提供								
【年度計画】 (4館共通) 1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 (九州国立博物館) 1)特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。特に特別展の内容理解を促進するための番組を制作、TV放映する。 2)現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、新鮮な展示情報を情報発信するためのウェブデータベースを整備する。 3)地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開する。 4)九州観光推進機構を通じた海外への広報・営業活動を展開する。 5)文化交流展示室からの積極的な情報発信を図るため、ポスター・ちらし・ウェブコンテンツの活用を一層、促進する。									
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長	小泉恵英					
	広報課		文化交流展室長	河野一隆					
			課長	梶村正年					
【実績・成果】 (4館共通) 1)季刊「アジアージュ」に加え、月毎に展覧会やイベントを紹介するちらしを制作・配布し、博物館の情報発信に努めた。 (九州国立博物館) 1)特別展では「よみがえる国宝」、「契丹 美しき三人のプリンセス」などでTV番組を制作・放映した。 2)陳列案や陳列履歴を格納したデータベースシステムを実験的に構築した。利便性の向上にむけて引き続き改良を行う。 3)地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を行った。 4)九州観光推進機構を通じた海外への広報営業活動を行った。 5)九州新幹線全通によって近くなった南九州への知名度の浸透を図るため、CM放映・刊行物配布ラックを設置した。									
【補足事項】 1)通常の展覧会告知CMに加えて、特別展会場からの生中継や特別展の内容をより深く知るための番組制作・放映を行い、それと呼应して来館者増に効果が認められた。 2)今まで、EXCELの表で管理していた陳列案や陳列履歴をウェブデータベースの形で管理するために、実験的なシステムを構築した。しかし、インターフェイスなどに多くの改善点が見えてきており、なお一層の利便性を向上するため、引き続き運用しながらの改良を続けていきたい。 3)地元の市、商工会、観光協会等と例月の太宰府ブランド創造協議会等を開催し、情報を交換した。太宰府市の広報誌に博物館コラムを掲載(毎月)。また、太宰府天満宮参道の商店や「九州国立博物館を愛する会」などを対象とする特別内覧会を実施した。 4)九州観光推進機構を通じ海外のメディアに博物館の紹介を行った。 5)九州新幹線の全通で博多と南九州が近くなったため、熊本駅・鹿児島中央駅に特別展・トピック展示などの刊行物を配布するラックを設置し、九博の知名度を上げるためのCMを作成し、放映した。初の試みであり、効果は部分的なものに止まったものの、今後の新規来館者層の開拓に期待できる。									
									
									
【定量的評価】項目									
23年度実績		目標値	評価	経年変化	19	20	21	22	
-		-	-	-	-	-	-	-	-
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動								
<b>【年度計画】</b> (4館共通) 1) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。 3) メールマガジンを配信する。 (東京国立博物館) 1) 「東京国立博物館ニュース」の編集・発行・配布を行う。(年6回) 2) 新作コンテンツの開発等により、ウェブサイトの充実を図る。									
担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	広報室長 小林牧						
<b>【実績・成果】</b> (4館共通) 1) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。 2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。 3) メールマガジンを配信した。(32回) (東京国立博物館) 1) 「東京国立博物館ニュース」の編集・発行・配布を行った。(年6回) 2) 新作コンテンツの開発等により、ウェブサイトの充実を図った。									
<b>【補足事項】</b> (東京国立博物館) 1) 「東京国立博物館ニュース」について <ul style="list-style-type: none"> <li>・23年4月にデザインリニューアルを実施(23年6・7月号より)。</li> <li>・24年1月から140周年関連新連載「教えて!なぜなにトーハク」を開始した。</li> </ul> 2) ウェブサイト新作コンテンツについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・23年4月ウェブサイトの全面リニューアルを実施した。</li> <li>・「1089ブログ」を創設し、展示・催しなどの情報をタイムリーに発信した(ブログ更新数178回)。</li> <li>・「140周年ありがとうブログ」を24年1月に創設し、多くの館員感謝を表すスタイルで館の活動について情報発信を行った。(ブログ更新数29回)</li> <li>・ユーザ参加型のコンテンツ「投票」「ユリノキひろば」を作成した。</li> <li>・動画による館の案内、おすすめコース案内などにより、わかりやすく親しみやすい情報発信を行った。</li> <li>・所蔵作品をデザインしたブログパーツを配信した。</li> <li>・所蔵作品をデザインしたスクリーンセーバーやポストカードなどのダウンロードサービスを行った。</li> <li>・民間企業との連携により、着せ替えカレンダーアプリを作成・配信した(23年9月～12月)</li> </ul>									
<b>【定量的評価】</b> 項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
東京国立博物館ニュースの発行		6回	6回	A		6	6	6	6
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
<b>【中期計画記載事項】</b> 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					



東京国立博物館ニュース

【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号 2442

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

**【年度計画】**

(4館共通)

- 1) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
- 2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
- 3) メールマガジンを配信する。  
(京都国立博物館)
- 1) 「博物館だより」、「News Letter」(英文)を年4回発行する。
- 2) 地域等が主催する各種の委員会に参加・連携し、広報活動を展開する。
- 3) 京都市内4美術館博物館で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。
- 4) 既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図る。
- 5) 収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 久保智康
------	-----	-------	-----------

**【実績・成果】**

(4館共通)

- 1) 各展覧会の招待日にプレス発表会を開催した。
- 2) ウェブサイトによる情報提供(日本語・英語)、及び、モバイルサイトによる情報提供を行った。
- 3) メールマガジンを発行した。(12回)

(京都国立博物館)

- 1) 「博物館だより」、「Newsletter」の発行・配布を行った(各4回)
- 2) 東山南部地域の社寺やホテル等と連携し、展覧会チケットが割引券となる地域マップ付チラシを作成し、広報活動を展開した。
- 3) 京都市内4館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館)の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布した。
- 4) 既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、新刊をメールマガジンにて配信し、利用者の拡大を図った。
- 5) 収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開した。

**【補足事項】**

- ・「博物館だより」は、年4回、それぞれ1万部から1万5,000部発行(季節による来館者見込により増減)し、観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか、郵送希望者にも発送している。
- ・「Newsletter」は、「博物館だより」の英語版として年4回発行し、配布している。現在113号に達しすでに四半世紀を超えた刊行物であり、外国人観覧者や留学生らの好評を博している。



Newsletter vol.110

【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
博物館だよりの発行	4回	4回	A	変化	4	4	4	4
Newsletterの発行	4回	4回	A		4	4	4	4

総合評価 S A B C F (S、Fの理由)

**【中期計画記載事項】**

広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

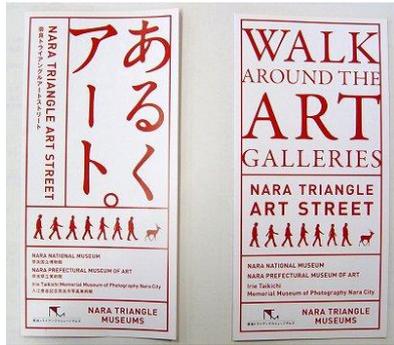
中期計画に対して順調に成果を上げているか。 順調

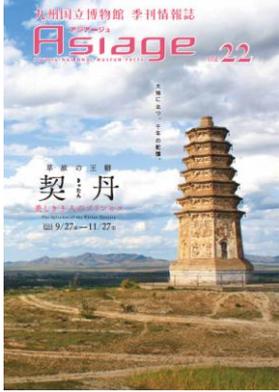
中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動(1/2)								
【年度計画】 (4館共通) 1) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。 3) メールマガジンを配信する。 (奈良国立博物館) (略)									
担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室	事業責任者	情報サービス室長 野尻 忠 総括専門職員 吉田貴至						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 読売新聞紙上に、年間を通じて文化財の魅力を紹介する連載を行った(隔週)。特別展「誕生！中国文明」において、読売新聞紙上に文化財の解説を連載した(5回)。特別展「天竺へ」において、朝日新聞紙上に文化財の解説を連載した(5回)。「第63回正倉院展」において、読売新聞紙上に宝物紹介を連載した(5回)。 2) 特別展や公開講座等の企画ごとに、また展示替えごとにウェブサイトおよびモバイルサイトを更新し、最新の情報提供を行った。 3) メールマガジンを毎月末に発信した。(12回)									
【補足事項】									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
-		-	-	-		-	-	-	-
総合評価	S <b>A</b> B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号 2443-2

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動(2/2)							
【年度計画】 (4館共通) (略) (奈良国立博物館) 1)特別展及び名品展の魅力を紹介した「博物館だより」を発行する。(年4回) 2)ウェブサイトの外国語版の充実を図る。 3)地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。 4)奈良県立美術館、入江泰吉記念奈良市写真美術館と奈良トライアングルミュージアムズを結成し、3館協力して集客に努める。 5)東大寺、春日大社などの寄託社寺及び賛助会員企業と連携し、特別展等の割引特典付きチラシを配布する。 6)文化大使を継続して任命し、広報活動を行う。 7)マスコミからの取材申し込みを積極的に受け入れ、展覧会、博物館活動への理解・促進を図る。 8)フィルムコミッションと連携して映画撮影等に場所提供を含め協力することにより博物館の認知度を高める。 9)季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載する。								
担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室	事業責任者	室長 野尻 忠 総括専門職員 吉田貴至					
【実績・成果】 (奈良国立博物館) 1)名品展や特別展の紹介に加え、文化財情報を満載した季刊誌「奈良国立博物館だより」を発行した(4回)。 2)「特別陳列」の対訳語が、ウェブサイト内で「Special Display」「Special Exhibit」などと揺れがあったのを、館内会議での議論を踏まえて「Feature Exhibition」に統一した。 3)地元の自治体・商工団体・観光団体等の会合に参加し、広報活動を展開するとともに情報収集を行った。 4)奈良トライアングルミュージアムズのHP、パンフレット(日本語・英語)を作成した。 奈良トライアングルミュージアムズを周知してもらうためのイベント「奈良トライアングルミュージアムズサテライトエキシビション on 2days」を行った。 5)東大寺、春日大社の協力を得て、体験型のイベントを行った。 冬季の集客を図るため割引券を作成し、観光案内所及び市内の宿泊施設に配布した。 6)文化大使の任期満了にともない、次期候補者の選考を行った。 7)特別展、特別陳列等の開催にあたっては、報道発表、プレスプレビューを実施、取材にも積極的に対応した。 8)フィルムコミッション奈良県サポートセンターのHPに登録した。 9)季刊誌「奈良国立博物館だより」のPDF版は、1年間の準備期間を経て、平成24年3月末日刊行号よりウェブサイトに掲載した。								
【補足事項】 地域との連携 ・「はじまりは正倉院展実行委員会」に参加し、スタンプラリーを実施。 ・地元ホテルのスタンプラリーの特典として、観覧料金の割引を実施。 ・地元商店街の割引クーポン利用施設に参加した。 ・奈良市民連携企画実行委員会企画のイベント等に協力した。								
								
		奈良トライアングルミュージアムズ パンフレット (日本語) (英語)		「おん祭と春日信仰の美術」 関連イベント「春日大社ツアー」				
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
博物館だより発行	4回	4回	A		4	4	4	4
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																										
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動																										
<b>【年度計画】</b> (4館共通) 1) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。 3) メールマガジンを配信する。 (九州国立博物館) 1) ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。 2) 「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を発行する。(年4回)																											
担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長 課長	梶村正年 岩崎英明																							
<b>【実績・成果】</b> (4館共通) 1) マスコミ媒体と連携した広報活動を展開した。年間を通じ新聞広告に掲載するなど、テーマを定めたトピック展示の特性を踏まえた広報を、マスコミ媒体を活用して行った。 2) ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。 3) メールマガジンを配信した。(毎月2回) (九州国立博物館) 1) 九州国立博物館CM「きゅうはく行かなきゃ！」(処理番号2434参照)をテレビ放映の他、YouTubeでも配信した。 2) 「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を発行した。(年4回)																											
<b>【補足事項】</b> (4館共通) 1) <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントやトピック展示の開催など40件のリリースを記者クラブに資料提供した。また、特別展の開催に関する記者発表やプレスプレビューを実施した。</li> <li>新聞紙上で展示作品の解説を行った。 西日本新聞に『黄檗-OBaku』、『よみがえる国宝』、『草原の王朝 契丹』、『細川家の至宝』の展示解説を連載し、展示作品の紹介を行った。</li> </ul> 2) ウェブサイト利用者からの意見に九博メールで対応した。 3) 毎月2回メールマガジンを配信した。 (九州国立博物館) 1) 特別展「草原の王朝 契丹—美しき3人のプリンセス」、 「細川家の至宝—珠玉の永青文庫コレクション」では、ウェブサイトにて研究員が展覧会の解説を行う動画をYouTubeで配信した。 2) 「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を4月1日、7月1日、10月1日、平成24年1月1日の4回発行した。																											
																											
季刊情報誌アジアージュ																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量的評価】項目</th> <th>23年度実績</th> <th>目標値</th> <th>評価</th> <th>経年変化</th> <th>19</th> <th>20</th> <th>21</th> <th>22</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「九博季刊情報誌アジアージュ」の発行</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>A</td> <td></td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>										【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22	「九博季刊情報誌アジアージュ」の発行	4回	4回	A		4	4	4	4
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22																			
「九博季刊情報誌アジアージュ」の発行	4回	4回	A		4	4	4	4																			
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)																										
<b>【中期計画記載事項】</b> 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。																											
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調																							

【書式A】

施設名 東京国立博物館処理番号 2451

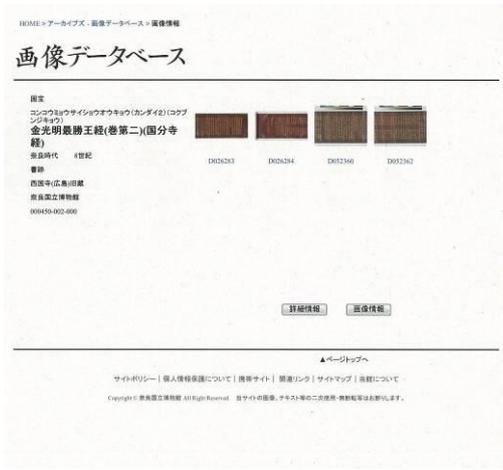
中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤ ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。								
【年度計画】 (4館共通) 1)アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一する。 2)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。									
担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	室長 小林牧						
【実績・成果】 (4館共通) 1)アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一した 2)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図った。									
【補足事項】 1)ユーザーセッション数について ウェブサイトのリニューアルに伴い、アクセス解析の方法を変更したため、アクセス数に関して、昨年度との比較は不可能。  2)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図った。 ・23年4月 東京国立博物館ウェブサイト全面リニューアルオープン ・トップページの全面刷新、ナビゲーションの見直しなど、必要な情報到達が容易でかつわかりやすい情報提供を心がけユーザビリティの向上を図った。 ・音声読み上げソフトに対応、言葉によるアクセスマップ、バリアフリー情報を充実させるなど、アクセシビリティに配慮した。 ・アクセス件数向上のために、SEO対策(検索エンジン最適化)を講じた。 ・海外への情報発信および、来客者の獲得を目指し、日本語から対応する英語ページへ簡便な移動を可能とした。 ・「1089 ブログ」、「140周年ありがとうブログ」により館員の顔の見える情報発信、「投票」、「ユリノキひろば」などユーザ参加型のコンテンツの提供、さらに動画やブログパーツ、スクリーンセーバーの提供などのサービス強化につとめアクセス数増加を図った。									
 リニューアルしたウェブサイト トップページ									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
ウェブサイトアクセス件数		2,772,633件	—	—		5,504,468	5,211,261	5,687,673	4,971,306
総合評価	⑤ A B C F(S、Fの理由)ウェブサイトの全面リニューアルにより、情報の幅と質が大幅に向上した								
【中期計画記載事項】 ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤ ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。							
【年度計画】 (4館共通) 1)アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一する。 2)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。								
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長	植田義雄	列品管理室長	鬼原俊枝		
【実績・成果】 (4館共通) 1)アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一した。 2)画像申請及び収蔵品データベースのページなどをリニューアルし、ウェブサイトの内容の充実に努めた。								
【補足事項】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>パソコン向けサイト及び携帯電話端末用サイトにおいて、特別展覧会、各種講座、イベント等のコンテンツを適宜更新し、モバイルユーザーに対して、最新の博物館情報の提供に努めた。また、月1回発行しているメールマガジンについても、同様に最新の博物館情報の提供に努め、展覧会会場の混雑状況や、イベント情報について臨時号の発行を行った。</li> <li>平成23年11月よりデジタル画像の貸出を開始したのに伴い、画像利用申請のページをリニューアルし、ウェブサイトをご覧の方へわかりやすいものにするよう努めた。</li> <li>収蔵品データベースのリニューアルにより、検索できる収蔵品の件数が増え、ウェブサイトをご覧の方への利便性を高めた。</li> </ul>					 <p>京都国立博物館 KYOTO NATIONAL MUSEUM</p> <p>HOME 展示案内 博物館概要 収蔵品 刊行案内 今日の博物館 よくあるご質問</p> <p>収蔵品データベース 画像利用申請 新VOTOMASE</p> <p>画像利用申請の手続き    画像利用申請書の入力方法    画像利用申請書の送付方法    画像利用申請書の送付方法</p> <p>画像利用申請の手続き    画像利用申請書の入力方法    画像利用申請書の送付方法    画像利用申請書の送付方法</p>			
【定量的評価】								
項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
ウェブサイトアクセス件数	1,835,640件	—	—		—	—	—	2,077,562
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

画像利用申請ページ

【書式A】

施設名 奈良国立博物館処理番号 2453

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤ ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。							
【年度計画】 (4館共通) 1)アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一する。 2)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。								
担当部課	学芸部情報サービス室	事業責任者	室長 野尻 忠					
【実績・成果】 (4館共通) 1)アクセス件数のカウントは、これをユーザーセッション数に統一した。 2)これまで掲載していた「奈良国立博物館所蔵写真データベース」に替えて、新たに「画像データベース」を掲載した(9月)。								
【補足事項】 ・アクセス件数は、平成遷都 1300 年記念だった 22 年度に比べると減少しているが、21 年度よりは大幅に増加している。画像データベースの掲載に加え、トップページ「トピックス欄」の見易さの追求、各展示館ごとの展示内容一覧の掲出など、日々の内容充実の努力が成果を上げている。								
								
画像データベースの検索結果(詳細)画面								
【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
ウェブサイトアクセス件数	722, 249 件	—	—		—	—	639, 030	769, 293
総合評価	S <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">A</span> B C F (S、F の理由)							
【中期計画記載事項】 ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ⑤ ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。							
【年度計画】 (4館共通) 1)アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一する。 2)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。								
担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長 課長	梶村正年 岩崎英明				
【実績・成果】 (4館共通) 1)アクセス件数のカウントをユーザーセッション数に統一した。 2)ウェブサイトの内容の充実を図った。								
【補足事項】 2) <ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの方に関心を持ってもらえるよう、特別展「草原の王朝 契丹」では、研究員が展覧会の解説を行う動画を YouTube で配信した(処理番号 2444 参照)。数多くのアクセスがあり、今後の広報を考えるうえで画期的な試みだった。</li> <li>・ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るため、当館のCMを作成し、YouTube でも配信した(処理番号 2434 参照)。</li> <li>・本年度4月1日より、ウェブサイトにより当館のデジタルアーカイブの運用を開始した。5ヶ国語(日、中、韓、英、仏)に対応した収藏品デジタルアーカイブを公開した。</li> </ul>								
								
<p>収藏品デジタルアーカイブ ウェブページ</p>		<p>特別展「草原の王朝 契丹」 ウェブページ</p>						
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
ウェブサイトアクセス件数	1,150,408件	—	—		1,164,425	1,480,341	1,956,287	1,384,701
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				